

第十一條 懲誠事犯ニ於テ教會所及説教所ニ係ル場合ハ寺院ノ條項ヲ適用シ其擔當主任ヲ寺院住職ト同一ニ見做スモノトス

第十二條 懲誠科目中ノ第三、四、五號ニ於テ十五等教師及司講輔教ノ等級降下ニ當ルトキハ期間ヲ定メ其權限停止ノ處分ヲ爲ス

第十三條 懲誠ニ依ル權限停止ハ三ヶ月以上一ケ年以内懺悔ハ二十日以上百日以内ニ於テ其罪狀ヲ酌量シ之ヲ裁定ス但其期間ハ權限停止ノ言渡ノ日ヨリ懺悔ハ實行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十四條 懲誠ノ加重輕減ハ加重ノ場合ハ一等輕減ノ場合ハ二等ヲ限度トス但二科目ノ適用アル事犯ニ付加重ノトキハ上位ノ科目ヨリ輕減ノトキハ下位ノ科目ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 教師黜免ニ當ルモノハ加ヘテ一宗擯斥ニ入ルヲ得ス亦譴責ニ當ル者ヲ減スルトキハ之ヲ懲誠セサルモノトス

第十六條 住職ニ非サル教師ノ住職罷免又ハ停權ニ當ル事犯ハ之ヲ降級ニ處シ末教師ノ者

教師黜免乃至降級ニ當ル事犯ハ之ヲ懺悔ニ處スルモノトス

第十七條 國法ノ處分ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ得タル者及過失ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ノ懲誠ハ一等乃至二等ヲ減シテ處分スルコトヲ得

第十八條 執行猶豫ヲ言渡サレタル者更ニ其期間内ニ於テ懲誠科目中ノ一ニ處セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ヲ取消サレタルトキハ取消ト同時ニ原料ノ懲誠ヲ執行スルモノトス

第十九條 懲誠スヘキ者ノ中左項ノ一ニ該當スル者ハ一等又ハ二等ヲ減スルコトアルヘシ

- 一 其罪ノ發覺セサル前ニ自首セシ者
- 一 十八歳未満ノ者及七十歳以上ノ者
- 一 宗團又ハ國家ニ對シ功勞アル者
- 一 金錢物品ノ損害ヲ辨償シタル者
- 一 其他情狀ノ憫察スヘキ者

第廿條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ懲誠セサルモノトス

第廿一條 懲誠事犯ノ未遂行爲ハ一等又ハ二等ヲ減シ之ヲ處分スルモノトス

但自己ノ意志ニ因リ之ヲ止メタル者ハ其懲誠ヲ免除スルコトアルヘシ

第廿二條 同科再犯ノ者ハ更ニ一等ヲ加ヘ二科併發ノ者ハ重キヲ以テ處斷シ並ニ事犯ノ情

狀重キ者ハ一等ヲ加重シ之ヲ處分ス

第廿三條 二人以上ノ共同事犯ハ皆之ヲ正犯トス

第廿四條 他人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ正犯ニ準シ之ヲ處分ス

第廿五條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トシ其懲誠ハ正犯者ヨリ一等又ハ二等ヲ減ス

第廿六條 懲誠事犯中國法ニ觸ル、事項ハ本則ニ依ル懲誠ニ拘ラス之ヲ其筋ニ告發ス

第廿七條 教師黜免ニ處セラレタル者ハ寺院住職其他教師ノ資格ニ因リ有スル職權ハ當然

之ヲ失フモノトス

第廿八條 宗内各機關ノ職員又ハ議員中懺悔以上ノ懲誠處分ヲ受ケタル者ハ當然其職ヲ失

フモノトス

第廿九條 一宗又ハ國家ノ重大ナル慶弔ニ際スルトキハ管長ノ特旨ヲ以テ懲誠中ノ者及事

犯審査中ノ者ニ對シ特免若ハ減誠ヲ行フコトアルヘシ

第卅條 法類ノ嘆願書及本寺ノ副書ヲ得總大本山住職又ハ宗務支所長ノ具狀アルトキハ

悔悟ノ狀顯著ニシテ左ノ年限ヲ經過シタル者ニ限り特免又ハ減誠ヲ行フコトヲ得

但禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ其特免ハ處刑ヲ終リ滿二ケ年ヲ經過スルヲ

要シ破産宣告ヲ受ケタル者ハ復權ノ上ニ非サレハ特免セサルモノトス

一、停權又ハ降級ハ滿一ケ年以上

一、住職罷免ハ滿二ケ年以上

一、教師黜免及一宗擯斥ハ滿三ケ年以上

第卅一條 一宗擯斥ノ者ニ對シ特免シタルトキハ更ニ度牒ヲ用ヒス僧籍ニ復シタルモノト

ス

第卅二條 降級以上ノ懲誠特免シタルトキハ元有セシ教師等級學階教階ト同等若ハ其以下

ノ等級ヲ復得セシムルモノトス

但懲誠當時ニ有セシ住職其他ノ職務権限ハ復活ノ限リニアラス

前項ノ規定ニ依ル教師等級ノ復得ハ普通昇補ノ手續ニ依ルヘシ

第卅三條 宗内教師ハ懲誠スヘキ事實ヲ認メタルトキハ之ヲ宗務當局ニ申告スルコトヲ得

第卅四條 本則施行ニ關シ必要ナル規程ハ別ニ教令ヲ以テ之ヲ定ム

補 則

第卅五條 本則改正前ノ懲誠規則ニ依ル審理中ノモノハ總テ本則ヲ適用スルモノトス

第卅六條 眞言各派ノ一ニ於テ懲誠ヲ受ケタル者ハ本宗ニ於テモ同一ノ懲誠ヲ受ケタル者

ト認ム

但降級以上ノ懲誠ヲ行ハントスルトキハ豫メ當該本人職務上ノ關係アル宗派管長ノ同意

ヲ得ルヲ要ス

寺有財産

宗規寺有財産管理規則

寺院所有地賣却ニ關スル内規

佛堂取扱ニ關スル内規

## 宗規寺有財産管理規則

昭和四年一月三十一日教令第四十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第十四章第八十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 寺有財産ヲ分ツテ左ノ四種トス

第一種 佛像、佛畫、佛具、經卷、古文書並ニ由緒アル物品及ヒ寶物

第二種 境内地並ニ境内地ニアル建物

第三種 境外所有地及ヒ建物並ニ有價證券蓄積資金

第四種 前三種ニ屬セサル物件

第三條 寺有財産ハ總テ三寶所屬ノ物件ナルヲ以テ住職ニ於テ嚴重保管スヘキモノトス

第四條 寺院ニハ財産帳ヲ備付ケ之ト同様ノ帳簿ヲ宗務所宗務支所ニ差出スヘシ

第五條 第一種及第二種ニ屬スル財産ハ如何ナル事由アルモ賣却讓與質入等ヲ許サス

但寺院ノ廢合又ハ維持若ハ公益上ニ關シテ止ムヲ得サル場合ハ其事情ヲ具シ管長ノ承認ヲ得制規ノ手續ヲ經タルモノハ此限リニ非ス

第六條 第三種ニ屬スル財産中有價證券蓄積資金ニ就テハ特ニ其保管ノ確實ヲ期スルモノトス

第七條 住職交替ノ際ハ關係人立會ノ上寺有財産第一種第二種第三種第四種ノ物件ヲ照合シ財産帳ニ引繼ノ證印ヲ捺シ其旨宗務所へ届出ツヘシ

但後任住職未決定ノ時ハ法類總代若ハ檀信徒總代ニ於テ引繼クモノトス

第八條 管長ニ於テ必要ト認ムルトキハ宗務所員若ハ支所長ニ命シ其寺院ニ就キ寺有財産ノ調査ヲナサシムルコトアルヘシ

第九條 寺院ノ經營者ハ整理上寺債ヲナス場合ハ管長ノ認可ヲ得ルヲ要ス

第十條 寺有財産ノ異動ニ關シ監督官廳ニ出願セントスルトキハ其事由ヲ明記シ關係人連署ノ上支所ヲ經由シ管長ノ添書ヲ得ヘシ

第十一條 前條ノ出願ニ對シ其筋ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ宗務所へ届出スヘシ

但官廳許可後一箇月以内ニ届出テサルトキハ相當ノ處罰アルヘシ

第十二條 本則施行ニ關スル必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

### 寺院所有地賣却ニ關スル内規

大正十四年五月二十日各派聯合告示 大正十五年十二月六日教令第二十五號改正

一 寺院財産中特ニ田畑并ニ宅地等ヲ賣却セントスルモノニ對シテハ豫メ左記各項ニ依リ許否ヲ審査決定スルト共ニ其賣却代金ヲ保管セシム

#### 第一 賣買ノ審査

一 公益ノ爲諸官公署ニ買收セラル、モノニシテ其地番、地目、反別地價及賣價ニ對シ當該官公署ノ證明ヲ添附セルモノハ管長添書ヲ下附ス

寺院所有地賣却ニ關スル内規

- 二 前項以外ノモノニ對スル賣却ハ正當ナル理由ヲ有シ其賣却豫定價格カ地價及當該地方ニ於ケル標準格ヲ斟酌シ至當ナリト認メタルモノニ限リ管長添書ヲ下附ス
- 三 第二項ノ地方廳ヨリ賣却許可ヲ受ケタル後ハ賣買契約書ヲ作製シテ其確定價格ヲ明示シ双方關係者連署ヲ以テ管長ニ届出テ其承認ヲ得ルニ非サレハ之レカ實行ヲ爲スコトヲ得ス

但確定價格ハ豫定價格ヨリ降下スルコトヲ得サルモノトス

第二 賣却代金保管方法

- 一 日本政府發行國債證券ヲ購入シ日本銀行ニ登録スルコトヲ要ス(登録ニ關スル手續ハ別紙添附ノ國債ニ關スル法令)抄参照)但千圓未滿ノモノハ確實ナル他ノ有價證券ヲ購入シ信用アル地方銀行ニ保管預ケトナスコトヲ得
- 二 前項ノ證券トナスコトヲ得サル端金ハ郵便貯金トナスコトヲ得

但當該管長ノ承認ヲ經ルモノトス

- 三 日本銀行へ登録ヲ爲シタルトキハ其國債購入ノ價格并ニ該銀行登録證明書ヲ届出ツヘシ
- 四 登録國債償還期ニ至リ償還ヲ受ケタルトキハ直ニ他ノ國債證券ヲ購入シ前各項ノ手續ヲ履行スヘシ
- 五 管長ノ承認ヲ得ルニ非サレハ登録ノ變更若クハ解除ヲ爲スコトヲ得ス
- 六 郵便貯金トナセシ金額ヲ排出サントスル場合ハ其支途ヲ明示シ管長ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

七 國債登録ニ關スル名義ハ左ノ通りトス

- イ 所有權名義 當該寺院
- ロ 右代表者 住 職
- ハ 右關係人 檀徒總代又ハ信徒總代三名以上

寺院所有地賣却ニ關スル内規

八 地方銀行へ預ケ入レタルモノモ前各項ニ準シ之ヲ取扱フモノトス  
二 前項ノ手續ニ違反シタルモノハ宗規ニ依リ處罰スルモノトス

保管手續ニ關スル參考 (國債ニ關スル法令抄)

國債ニ關スル件 (明治三十九年四月  
法律第三四號抄)

第二條 國債ニ對シテハ無記名證券ヲ發行ス

國債ノ登録ハ債權者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ證券ヲ發行セス  
但債權者ノ請求アルトキハ記名證券ヲ發行ス

國債規則 (大正十一年四月  
大藏省令第三一號抄)

第二十一條 國債登録簿ハ甲乙二種トシ甲種ハ證券ヲ發行セサルモノヲ登録シ乙種ハ記名  
國債證券ヲ發行スルモノヲ登録ス

國債登録簿ハ之ヲ日本銀行本店ニ置ク

第二十六條 國債ノ登録ハ自然人ニ在リテハ其ノ氏名ヲ、法人ニ在リテハ其ノ名稱ヲ、法  
人ニ非サル組合ニ在リテハ其管理者ノ氏名ヲ以テ之ヲ爲ス  
但法人ニ準スヘキ團體ニシテ從來其ノ名稱ヲ以テ登録スルノ慣習アルモノハ其ノ慣習ニ  
從フ

共有ニ係ル登録國債ニ付テハ請求書ニ掲ケタル筆頭者ノ氏名及他ノ人員ヲ登録シ其ノ氏  
名ハ別ニ共有人名簿ニ記載ス

第二十八條 無記名國債證券ノ所持人國債登録ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ  
且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一、國債登録簿ノ種別

二、國債ノ名稱

三、無記名國債證券ノ記號、額面金額ノ種類及枚數

寺院所有地賣却ニ關スル内規

四、登録金額

五、登録スヘキ記名

六、元利金ノ支拂場所

七、請求ノ年月日

八、請求者ノ住所但シ請求者記名者ト異ナキハ記名者ノ住所トモル

第三十條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左

ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一、國債ノ名稱及變更スヘキ登録金額

二、登録國債ノ記號及番號

三、記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持

分金額及氏名

四、登録變更ノ事由

五、請求ノ年月日

六、請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ前項ノ場

合ニ於テ請求者ハ登録ノ變更ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

但權利ノ移轉ニ因リ登録ノ變更ヲ請求スル場合當事者双方カ其ノ請求書ニ記名捺印シタルトキハ此ノ限ニ非ラス

第三十四條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ國債登録ノ除却ヲ請求セムトスルモ

ノハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一、國債ノ名稱及除却スヘキ登録金額

二、登録國債ノ記號及番號

三、登録ノ記名

四、國債登録ノ除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

五、請求年月日



## 六、請求者ノ住所

第四十四條 登録國債ノ記名者ノ親權者、後見人、保佐人、其ノ他記名者ノ爲ニ其ノ權利ヲ行使スル者ニ付テハ其資格ヲ證明スル書類ヲ取扱店ニ提出スヘシ

前項ノ親權者其ノ他記名者ノ爲ニ其ノ權利ヲ行使スル者ニ變更アリタルトキハ後任者ハ記名者ヨリ遲滞ナク證明書類ヲ添付シテ其ノ旨ヲ届出ツヘシ  
前項ノ規定ハ法人ノ代表者ニ變更アリタルトキニ之ヲ準用ス

第五十四條 登録國債ノ元金及利息子ハ甲種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ領收書ト乙種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ記名ノ國債證券利札又ハ添付利札ト引換ニ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者タルコトヲ表示シタル者ニ之ヲ支拂フ  
前項ノ領收證書ノ所持人并記名ノ國債證券、利札又ハ添付利札及豫テ届出ノ印章ニ依ル請求者ハ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ト看做ス

第五十九條 國債ノ元金又ハ利子ノ支拂ヲ受クヘキ者ハ書面ヲ以テ其ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル送金ノ費用及危險ハ請求者ノ負擔トス

## 日本銀行國債事務取扱手續

第二十四條 府縣社以下ノ神社又ハ寺院ヨリ登録國債ニ關シ提出スル各種請求書及届書ニハ代表者及總代人ヲシテ連記捺印セシメ且其總代人タルコトヲ確ムル爲公吏ノ證明ヲ受ケシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ登録變更登録除却及質權ニ關スル登録ニ付テハ公吏ノ證明アル總代人ノ印鑑ヲ添付セシムヘシ

第一項ノ規定ハ特別ノ慣習アルモノニ之ヲ適用セス 但此場合ニ在リテハ監督官廳又ハ公吏ノ證明ヲ受ケシムヘシ

第二十八條 無記名國債證券ノ所有者ヨリ登録ノ請求アルトキ又ハ本請求ト同時ニ他ノ請求ヲ併セ爲ス者アルトキハ其證券ニ第二十七號書式ノ請求書ヲ添へ差出サシメ本店ニ送

付スヘシ

第三十二條 登録國債ノ登録除却ヲ請求スル者アルトキハ第四十一號書式ノ請求書ヲ差出サシメ本店ニ送付スヘシ

第四十條 國債規則ニ依リ徵スル登録國債ノ記名者其ノ他ノ印鑑ハ左ノ區別ニ從ヒ新ニ登録ヲ請求スルトキ之ヲ徵スヘシ

一、記名者カ自然人ナルトキハ記名者ノ印鑑

二、(前略)法人又ハ社寺ナルトキハ代表者ノ印鑑

三、(略)

四、(略)

第四十九條 元利金支拂所管ノ登録國債ニ付元利金ノ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ甲種登録國債ニ在リテハ第六十號又ハ第六十一號書式ノ領收證書ヲ差出サシメ元金支拂通知書若クハ利子支拂原表(副本)及印鑑ニ照合ノ上支拂ヲ爲シ乙種登録國債ニ在リテハ證券

又ハ利札ヲ差出サシメ元金支拂通知書又ハ第六十二號書式ノ利子支拂票ニ記名捺印セシメ印鑑ニ照合ノ上之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項領收證書乙種登録國債元金支拂通知書及利子支拂票へ每一ヶ月分ヲ取纏メ本店ニ送付スヘシ

元利金ノ送付ヲ請求スル者アルトキハ適宜ノ書面ニ證券又ハ利札若クハ領收證書ヲ添ヘ差出サシメ送金ニ要スル費用ヲ元利金ノ内ヨリ引去リ之レカ取扱ヲ爲スヘシ

第五十條ノ二 府縣社以下ノ神社又ハ寺院ヨリ登録國債ニ對スル元利金支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ甲種登録國債ニ在リテハ領收證、乙種登録國債ニ在リテハ適宜ノ請求書ニ代表者及總代人ヲシテ連記捺印セシメ且總代人タルコトヲ確ムル爲公吏ノ證明ヲ受ケシメ尙總代人ノ印鑑證明書ヲ添付セシメ第四十九條ニ準シ取扱フヘシ

第二十四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

甲種國債登錄簿新規登錄請求書

(第二十七號書式)

公債ノ名稱及記號ノ異ル毎ニ別紙提出ノコト  
初メテ甲種登錄簿請求ノ方ハ印鑑貳葉添付ノコト

登錄スヘキ記名 古義真言宗 何寺院

一無記名

額面

圓 此證券

枚

(記號)

號

內	貳拾五圓券	枚	壹千圓券	枚
內	五拾圓券	枚	五千圓券	枚
內	壹百圓券	枚	壹萬圓券	枚
譯	五百圓券	枚	拾萬圓券	枚

右國債甲種國債登錄簿ニ登錄相成度證券相添ヘ此段請求候也

元利金ハ左記ニ於テ御仕拂相成度候但利子拂出ノ場合ニ限リ關係人中管長  
記名捺印ヲ省略可致候

元利金仕拂場所

各地所在ノ日本銀行支店、代理店  
郵便局等ヲ任意ニ指定スルコト

年 月 日

何府縣何市郡何町村大字何々

古義真言宗 何寺院

右代表者 住職 何

右關係人

右寺院檀(信)徒總代

何 何 何

某 某 某 某  
印 印 印 印

寺院所有地賣却ニ關スル内規

(三名以上)

日本銀行御中

備考  
 1 請求者ト記名者ト異ルトキハ記名者ノ肩ニ其住所ヲ附記スルコト  
 2 支拂期ノ開始セサル附屬利札ノ欠缺セサルモノアルトキハ「何年何月渡分欠缺」ト附記スルコト  
 3 元利金ハ日本銀行本支店代理店ノ外各地郵便局ニ於テ受取ルコトヲ得

甲種登録國債償還元利金領收證書

號第

元金

圓

利子

圓

計金

圓

但償還期

年

月

日

右國債元利金領收候也

年 月 日

古義真言宗 何々寺院

右代表者 住職 何

某 印

何府縣何市郡何町村大字何々

右關係人

右寺院檀(信)徒總代

何 某 印

(三名以上)

日本銀行御中

甲種登録國債利子領收證

何年何月渡

寺院所有地賣却ニ關スル内規

一金

號第 番

公 利子

年 月 日

右國債利子領收候也

何府縣何市郡何町村大字何々

古義真言宗 何寺院

右代表者 住職 何

右寺院檀(信)徒總代 何 某 某 某 (印)

(三名以上)

日本銀行御中

### 佛堂取扱ニ關スル内規

大正八年二月十七日發布

一、信徒總代連署出願ノモノニ限リ管長名ヲ以テ佛堂受持教師ヲ任命スル事

二、關係者ニ異議アリテ決定ニ至ラサル場合ハ法務支所へ命シ調査又ハ調停セシムルコトアルヘシ

三、受持教師任命ノ上ハ關係者ヨリ府縣へ其旨届出テシメ當所ヨリハ別ニ報告ヲ爲ササルモノトス

會計

宗規會計規則

宗規宗費賦課及禮錄徵收規則

宗費賦課金減免規程

## 宗規會計規則

大正十五年五月十五日告示第九號、大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和三年二月十三日教令第三十六號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和六年三月二十日修正

第一條 本則ハ宗憲第十五章第九十條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 會計年度ハ四月一日ヨリ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ支出ヲ歲出トス

第四條 歲入歲出ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

但宗會ニ於テ豫算成立ニ至ラサルトキハ前年度ノ豫算ヲ襲踏スルモノトス

第五條 豫算ハ款項ヲ區分シテ編成スヘキモノトス

第六條 豫算中ニ豫備費ヲ置ク

豫備費ハ豫算超過又ハ豫算外ノ必要費ニ充ツ

第七條 豫算外ニ於テ緊急支出ヲ要シ宗會參事會ノ協贊ヲ經ル邊ナキトキハ經常費豫算

十五分ノ一ヲ限リ便宜支出スルコトヲ得

前項ニ係ル支出ハ次期宗會ニ於テ其承認ヲ得ルヲ要ス

第八條 通常會計ノ歲計剩餘金ヲ以テ豫備資金ニ編入スヘシ豫備資金ハ經常費及臨時費ノ融通資金ニ充ツルコトヲ得

第九條 會計年度歲入歲出ノ事務ハ翌年五月末迄ニ完結シ會計監査員ノ監査ヲ受クヘシ

第十條 宗費賦課金等ノ延納ニ係ル收入ハ前年度ノ不足ヲ填補シ工事未成等ノ事故ニ依リ其費用ヲ支拂フコトヲ得サリシ支出ハ其完成ニ至ル迄繰越シ使用スルコトヲ得

第十一條 收入現金ハ直チニ銀行へ預ケ入レ支出ヲ要スルトキハ拂出スヘキモノトス

第十二條 歲計決算ハ會計監査員ノ監査ヲ經テ決定シ宗會ノ承認ヲ求ムルモノトス

第十三條 歲計豫算ヲ經常臨時ノ二種ニ分チ各之ヲ款項目ニ區分シ歲入ノ性質歲出ノ費目ヲ明ニスヘシ

但歲出ニアリテハ各款項ノ定額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十四條 歲計ノ決算書ハ豫算ノ様式區分ニ從ヒ其年度ニ屬スル收支事項ヲ明記スヘシ

歲 入 之 部

一、歲入豫算總額

一、歲入既收額

一、歲入未收額

一、歲入不足額

一、歲入超過額

歲 出 之 部

一、歲出豫算額

一、歲出支拂額

一、歲出剩餘又ハ不足額

第十五條 宗内各機關ノ特別基金ハ國庫債券其他有價證券ト爲シ日本銀行又ハ確實ナル銀



行ニ保管預ト爲シ別途積立金ハ銀行定期預金若クハ特別當座預金ト爲シ其元利金ハ所定ノ目的以外ニ支辨スルコトヲ得ス

但別ニ規定アルモノハ其規定ニヨリ取扱フモノトス

第十六條 會計ハ總テ明細ニ帳簿ヘ記載シ宗會議員ノ要求アルトキハ何時ニテモ檢閲セシムルモノトス

第十七條 會計上取扱者ノ過誤怠慢ニ依リ缺損ヲ生シタルトキハ當事者其責ニ任スヘシ

避クヘカラサル事故ニ起因スルモノハ管長ニ於テ其責ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 本則施行上必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

### 宗規宗費賦課及禮錄徵收規則

大正十五年五月十五日告示第九號、大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和三年二月十三日教令第三十六號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第十五章第九十條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 宗費賦課ハ等級累進課金、兼務寺院特別課金、實收入按分課金ノ三種ニ分テ左ノ通り毎年賦課率及限度ヲ定メ之ヲ徵收スルモノトス

一、等級累進課金ハ寺院及教會所ノ實收入ニ對シ別表ノ率ニ依リ之ヲ徵收ス

一、兼務寺院特別課金ハ特ニ兼務寺院ノ實收入ニ對シ百分ノ十ノ割ヲ以テ徵收ス

一、實收按分課金ハ臨時費及追加豫算中ノ其年度ニ於テ賦課スル必要アル金額ニ限り寺院及教會所ノ實收入ニ對シ按分比例ヲ以テ之ヲ徵收ス

#### 等級累進課金表

宗費賦課及禮錄徵收規則

宗費賦課及禮錄徵收規則

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	同	同	同	同	同	同	同
〇	〇	〇	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一二五	一二〇	一一五	一一〇	一〇五	一〇〇	九五	九〇	八五	八〇	七五	七〇	三八九						

寺院等級

特等

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一	二	三	四	五	一	二	三	四	五	六	五	四	三	二	一	同	同	同
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八〇	一七五	一七〇	一六五	一六〇	一五五	一五〇	一四五	一四〇	一三五	一三〇								

教會所等級

實收入千分ノ

同	十九	九	六五
同	二十	十	六〇
同	二十一	十一	五五
同	二十二	十二	五〇
同	二十三	十三	四五
同	二十四	十四	四〇
同	二十五	十五	三五

三九〇

但實收入五圓未満ノモノハ五圓ノ割ヲ以テ計算ス

第三條 前條規定ノ寺院實收入額ハ大正十四年財産調査局ニ於テ調査セシ額ニ據ルモノ

トス 但查定規則ニ依リ異動ヲ生シタルモノハ其額ニ依ル

第四條 大師教會員會費ノ徵收ニ就テハ別ニ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 禮録ヲ左ノ六種トシ其額ヲ定ムルコト左表ノ如シ

一、寺格昇格禮録 一、住職禮録

一、教師補任禮録 一、色衣禮録

一、度牒禮録 一、托鉢禮録

寺格昇格禮録

寺格 禮録

三 等 格 院 金 貳 拾 圓

二 等 格 院 金 五 拾 圓

一 等 格 院 金 壹 百 圓

準 別 格 本 山 金 參 百 圓

別 格 本 山 金 五 百 圓

住 職 禮 録

等 級 金 額

宗費賦課及禮録徵收規則

三九一

特等	同	同	同	同	同	等地	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一	二	三	四	五	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七
四千五百圓	三千圓	一千九百五十圓	一千二百七十圓	七百五十圓	四百八十圓	三百八十圓	三百二十圓	二百六十圓	二百二十圓	百八十圓	百五十圓	百八十圓	百七十圓	百八十圓	百七十圓	百八十圓	百七十圓	百八十圓	百七十圓	百八十圓	百七十圓

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七
百二十五圓	九十七圓	七十八圓	六十七圓	四十八圓	四十三圓	三十三圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十五圓	十二圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓

同	二十	十	十二圓
同	二十一	八	圓
同	二十二	六	圓
同	二十三	四	圓
同	二十四	二	圓
同	二十五	一	圓

一、兼務住職並後任登錄ノ禮録ハ正住職ノ半額トス  
 一、副住職ハ禮録ヲ要セス

教師補任禮録

教師等級 金額

大僧正	不	要
權大僧正	百八十五圓	

中僧正	百六十圓
權中僧正	百三十五圓
少僧正	百十圓
權少僧正	九十圓
大僧都	六十八圓
權大僧都	五十六圓
中僧都	四十五圓
權中僧都	三十六圓
少僧都	二十七圓
權少僧都	二十圓
律師	十三圓
權律師	九圓

宗費賦課及禮録徴收規則

試 補 五 圓

贈補禮錄ハ半額トシ宗規教師補任規則第四條第一項並ニ第五條第一項第二項第三項及特  
遇褒賞ニ依ルモノハ特ニ禮錄ヲ免除シ同第五條第四項ニ依ルモノノ禮錄ハ男僧ハ參拾五  
圓尼僧ハ拾圓トシ同第四條第二項ニ依ル者ノ禮錄ハ男僧拾圓尼僧五圓トス

色 衣 禮 錄

色 衣 金 額

緋 色 禮 錄 不 要

紫 色 拾 圓

青 色 五 圓

宗規教師補任規則第四條第一項第五條第一項第二項第三項ニ依ル者ハ之ヲ免除ス

度牒禮錄 金 二 五 圓

托鉢禮錄 金 五 圓

非住職ハ半額

第六條 教師檢定受験料及添書等下附ノ手数料ヲ左ノ如ク定メ出願者ヨリ之ヲ徴收ス

宗規教師補任規則第五條第一項ニ依ル

教師檢定受験料 金七拾圓

同 第二項ニ依ル

教師檢定受験料 金六拾圓

同 第三項ニ依ル

教師檢定受験料 金五拾圓

同 第四項ニ依ル

教師檢定受験料 金拾 圓

添書等下附手数料 金壹 圓

第七條 諸禮錄及前條ノ納付金ハ其書類ニ添ヘ納付スルモノトス但別ニ領收證ヲ交附セ

宗費賦課及禮錄徴收規則

ス願意ヲ採用セサルトキハ之ヲ返付ス

第八條 宗費賦課金ハ止ムヲ得サル事故ナキ限り納期ヲ二月、八月ト定メ二回ニ賦課シ宗務支所並本山寺務所ニ於テ徵收ス

直轄寺院其他直接本所へ納付ヲ要スル場合ハ本所ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス  
臨時賦課ノ必要アルトキハ其都度別ニ納期ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

第九條 宗務支所並本山寺務所ハ課金ノ納付ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ本所ニ着金スヘク送附スヘキモノトス

課金徵收ニ要スル費用ハ各其事務所ノ支辨トシ賦課金納付遲滞ノ爲メ別ニ要セシ費用ハ遲滞者ノ負擔トス

第十條 宗費賦課率ハ毎年十二月一日現在ニ於ケル寺院収入査定額ヲ基準トス

但兼務課金ニ限り六月一日並十二月一日ノ現在ニ依ルモノトス

第十一條 納期後五十日ヲ過キテ宗費賦課金ヲ納付セサルモノ及分納又ハ延納ノ許可ヲ得

タル期間内ニ納付セサルモノハ總テ之ヲ怠納者トス

第十二條 分納又ハ延納ハ正當ノ事由アルモノニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 課金納付ヲ遲滞セル者ノ補任其他進退ノ諸願書ハ其課金ヲ納付シタル後處理スルモノトス

第十四條 非常災害等ニ依リ寺院教會所賦課金ノ負擔ニ堪ヘサル者アルトキハ之ヲ審査シ確認シタルモノニ限り其課金ノ全部又ハ幾部ヲ免除スルコトヲ得

前項課金ノ減免ニ關スル規則ハ宗會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第十五條 宗務本支所並本山事務所ニ於テ寺院教會所賦課金若ハ禮録金等其保管ニ係ル金品ヲ過誤怠慢ノタメ紛失若ハ盜難其他ノ其故ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ其主任者ニ於テ之カ辨償ノ責ニ任スヘキモノトス

但避クヘカラサル正當ノ事由アルモノハ管長ニ於テ參事會ノ決議ヲ經テ其責任ヲ免除又ハ輕減スルコトアルヘシ

第十六條 本則施行ニ關スル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

補 則

第十七條 本則改正第二條ハ昭和五年度ヨリ之ヲ施行ス

### 宗費賦課金減免規程

大正十五年四月七日教令第四號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規宗費賦課及禮錄徵收規則第十四條第二項ニ基キ之ヲ定ム

第二條 本宗寺院ニシテ天災若クハ特別ノ事情アルモノニ限り本規程ニ依リ宗費賦課ノ減免又ハ延納ヲ許可ス

第三條 左ニ該當スルモノハ十ヶ年以内其ノ寺院ノ賦課金ヲ免除スルコトヲ得

一、本堂庫裡共流失燒失又ハ倒潰シタルモノ

第四條 左ニ該當スルモノハ五ヶ年以内其ノ寺院ノ賦課金ヲ免除スルコトヲ得

一、本堂若クハ庫裡流失燒失又ハ倒潰シタルモノ

第五條 左ニ該當スルモノハ五ヶ年間其ノ寺院賦課金ヲ免除ス

一、開教地并ニ内地ニ於テ寺院ヲ創立シ寺號公稱ノ認可ヲ得タルモノハ若クハ移轉シタルモノ

第六條 動産不動産ヲ新ニ寺院ニ寄附シ寺有名義ニ爲シタル財産ニ對シテハ左記ノ通り寺院賦課金ヲ免除スルモノトス

一、寺有財産ニシテ住職又ハ他人ノ名義ニ屬セルモノヲ寺有名義ニ爲シタル財産ニ對シテハ五ヶ年間ノ宗費免除ス

二、住職ノ私財ヲ寄附シ寺有名義ニ爲シタル財産ニ對シテハ其住職在職中宗費ヲ免除ス

三、檀信徒ヨリ寄附セル財産ニ對シテハ十ヶ年間宗費ヲ免除ス

第七條 境外所有ニシテ天災ニ罹リ免租ニナリタルモノアルトキハ市町村長ノ證明アル宗費賦課金減免規程



モノニ限り共免租年限内ニ於テ其ノ財産ニ對スル賦課金ヲ免スルコトヲ得

第八條 境外所有ニ於テ非常災害又ハ特別ノ事情ニ依リ三ヶ年以上繼續シテ収入三分ノ

一以上ヲ減シタルモノアルトキハ其ノ程度ニ應シ三ヶ年以内其寺院賦課金ノ減免ヲナス

コトヲ得

但減收ノ程度ハ市町村長ノ證明ヲ要ス

第九條 左ニ該當スルモノハ三ヶ年以内其寺院賦課金ノ二分ノ一以内ニ於テ之ヲ減免スルコトヲ得

一、本堂若クハ度裡半燒半潰ノモノ

第十條 二ヶ年以上小作爭議ノ爲メ小作料不納ノ場合ハ其程度ヲ審査シ爭議解決ニ至ル

迄宗費ノ延納ヲ許可スルコトアルヘシ

小作爭議ニ依ル過去ノ減収ニ對シテハ其事由ヲ審査シ減免スルコトヲ得

但町村長ノ證明ヲ得テ出願スルヲ要ス

### 寺法

宗規總本山金剛峯寺々法

宗祖廟前參籠規程

高野山境内整理規程

高野山内協議員會規程

高野山靈寶館規程

高野山靈寶館規程施行細則

宗規大本山仁和寺々法

仁和寺護持財團寄附行爲

宗規大本山大覺寺々法

大覺寺護法財團寄附行爲

## 宗規總本山金剛峯寺々法

大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號、昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

- 第一條 本寺法ハ宗憲第七章第五十一條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 金剛峯寺住職ハ古義真言宗管長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 金剛峯寺住職ハ古格ニ依リ座主ト稱ス
- 第四條 座主ハ寶祚延長國家安寧ノ祈願其他恒例ノ法會ヲ勤修ス
- 第五條 座主ハ直末寺院住職ニ法流ヲ允可ス
- 第六條 座主ハ真言宗各派ノ教師ニ宗祖廟前參籠證ヲ授與ス
- 第七條 座主ハ總本山ノ事務ヲ總攬ス
- 第八條 座主ハ直末并ニ所轄寺院ノ諸願ニ對シ副伸ヲ與フ
- 第九條 座主ハ總本山ノ事務ニ關シ必要ナル告示諭達ヲ發ス

第十條 座主ハ特請若ハ必要ト認メタルトキハ親教シ又ハ布教師ヲ巡化セシム

第十一條 金剛峰寺ニ寺務所ヲ置キ諸般ノ事務ヲ處理ス

第十二條 金剛峯寺寺務所ニ左ノ二部ヲ置キ其下ニ課ヲ分ツ

第一部

庶務課

- 一、教學ニ關スル事項
- 一、諸官衙及各宗派ニ關スル事項
- 一、所屬寺院及僧侶ニ關スル事項
- 一、會議及選舉ニ關スル事項
- 一、公印保管ニ關スル事項
- 一、文書往復ニ關スル事項
- 一、諸記錄帳簿整理ニ關スル事項

一、人事ニ關スル事項

一、他課ノ主宰ニ屬セサル事項

監正課

一、山内賞罰ニ關スル事項

一、山内風紀ニ關スル事項

會計課

一、豫算、決算及財産ニ關スル事項

一、收入支出ニ關スル事項

第二部

法務課

一、法流允可、法會、法談及儀式ニ關スル事項

檀信徒課

一、檀信徒ニ關スル事項

一、救濟慰問ニ關スル事項

什寶課

一、靈寶館ニ關スル事項

一、寶物什器及圖書ニ關スル事項

山林課

一、山林經營ニ關スル事項

工務課

一、堂宇營繕境內整理ニ關スル事項

調度課

一、物品調度及保管ニ關スル事項

第十三條 金剛峯寺々務所ニ執行長一名、執行二名、内事長一名、主事若干名、書記若干

名ヲ置ク

執行長ハ事務ヲ總攬シ其責ニ任ス

執行ハ執行長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ管掌ス

内事長ハ第二部ニ屬シ寺内諸般ノ實務ヲ指揮ス

主事ハ上長ノ命ヲ受ケ各課ノ事務ヲ擔任ス

書記ハ上長ノ指揮ヲ受ケ事務ニ従事ス

第十四條 執行長ハ宗務所執行長ヲ以テ之ニ充テ執行一名ハ山内寺院住職中ヨリ一名ハ山

外ノ寺院住職中ヨリ執行長ノ推薦ニヨリ座主之ヲ任命ス

但執行缺員ノ場合ハ當分ノ内執行長又ハ他ノ執行ニ於テ之ヲ兼任スルコトヲ得

第十五條 執行ノ任期ハ執行長ノ任期ニ伴フモノトス

第十六條 各部ニ部長各課ニ主任ヲ置ク部長ハ執行ヲ以テ之ニ充テ主任ハ主事又ハ書記技

術員中適任者ヲ選ヒ執行長ノ推薦ニ依リ座主之ヲ命ス

但主任ハ數課ヲ兼任スルコトヲ得

第十七條 奥院及壇場ニ維那各一名ヲ置キ其任期ヲ三ケ年トシ上長ノ指揮ヲ受ケ御廟前及御寶前奉仕ノ事ヲ掌ルモノトス

第十八條 奥院及壇場ニ供養法師ヲ置キ長日供養ヲ勤修セシム

第十九條 法會法談其他特種ノ事務ニ關シ委員又ハ係員ヲ置クコトヲ得

第二十條 山林經營、堂宇造營、土地整理、其他ノ事業ニ關シ特ニ技術員ヲ置ク

第二十一條 內事長並ニ維那及主事ハ執行長ノ推薦ニ依リ書記其他ノ職員ハ執行ノ推薦ニ依リ座主之ヲ任命ス

第二十二條 金剛峯寺經常部并ニ保管林分收金歳入歳出ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ者宿會ノ諮詢ヲ經テ宗會ノ協賛ヲ受クルモノトス

第二十三條 豫算外ニ於テ緊急支出ヲ要スルトキハ左ノ範圍ニ於テ便宜支出スルコトヲ得其範圍ヲ超ヘ支出ヲ要スル場合ハ參事會ノ協賛ヲ經ヘキモノトス

一、經常費ハ其豫算ノ十分ノ一

一、保管林分收金ハ其豫算ノ二十分ノ一

本條ニ依ル支出ハ次期宗會ニ於テ其承認ヲ經ルヲ要ス

第二十四條 參事會ハ經常部ハ其豫算ノ五分ノ一、特別部ハ其豫算ノ六分ノ一己上ノ協賛ヲ與フルコトヲ得ス

第二十五條 歳入歳出決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ編成シ會計監査員ノ監査ヲ經テ宗會ノ承認ヲ求ムルモノトス

第二十六條 會計年度ハ四月一日起リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十七條 收支決算ニ剩餘ヲ生シタルトキハ別途保管トシ宗會ノ協賛ヲ經テ處理スルモノトス

第二十八條 前五條ノ外會計ニ關スル規定ハ宗規會計規則ヲ準用ス

第二十九條 保管林收入ハ毎年豫算ヲ以テ定メタル收得金ヲ三等分シ左記ノ通り割當スルモノトス

收入豫算ニ過剩ヲ生シタルトキハ調節準備金トシテ別途ニ保管シ置キ豫算ニ不足ヲ生シタル場合ニ之ヲ填補スルモノトス

第一項、蓄積金

一、勸學基金

一、維持基金

第二項、經理費

一、山林經營費

一、境内整理、諸堂營繕及建築土木費

一、本山法會法談費

一、救濟慰問費

第三項、教學費

但第三項ハ宗務所ニ交付スルモノトス

第三十條 蓄積基金ハ之ヲ二分シ一半ハ勸學ノ基金ニ一半ハ維持基金ニ充當スルモノトス

第三十一條 勸學基金ノ利子ハ宗會ノ協賛ヲ經テ勸學費ニ支出スルコトヲ得

第三十二條 維持基金ハ確實ナル方法ニ依リ元利蓄積シ非常災害ニ遭遇セル場合ニ限り其

都度利子金ノ内ヨリ相當金額ヲ定メ宗會ノ協賛ヲ經テ左記各項ニ對シ支出スルコトヲ得

一、金剛峯寺非常災害臨時費

二、山内寺院非常災害救助費

三、本宗寺院非常災害慰問費

第三十三條 山内寺院建築又ハ營繕ニ要スル木材又ハ檜皮ヲ保管林ヨリ拂下ケタルトキハ

當該物件ニ對スル金剛峯寺收得金ノ二分ノ一ヲ其寺院ニ補給ス

但木材ハ其年度伐採石數ノ四十分ノ一ヲ限度トス

第三十四條 總本山ノ恒規ノ法會及法談ハ左ノ如シ

第一項 法會

金剛峯寺々法

- 一、奧院修正會
- 一、金堂修正會
- 一、仁王會
- 一、常樂會
- 一、御衣加持
- 一、奧院正御影供
- 一、御影堂正御影供
- 一、佛生會
- 一、奧院萬燈會
- 一、四季祈
- 一、結緣灌頂
- 一、宗祖誕生會

- 一、陀羅尼會
- 一、不斷經
- 一、盂蘭盆會
- 一、御國忌
- 一、先師年忌會
- 一、諡號奉讚會
- 一、春秋彼岸會
- 一、山王院門徒
- 一、奧院月並御影供
- 一、御影堂門徒
- 一、奧院壇場諸堂常時勤行

第二項 法談及學道

金剛峯寺々法

- 一、山王院月並問講
- 二、御影堂月並問講
- 一、學道新衆一巡問講
- 一、山王院堅精
- 一、校合打集
- 一、内談議
- 一、山王院御最勝講
- 一、勸學會
- 一、學修灌頂
- 第三十五條 山内寺院住職ハ恒規法會及法談ヲ嚴修スヘキモノトス
- 第三十六條 開教地並ニ内地樞要ノ地ニ金剛峯寺別院ヲ置ク  
但總本山金剛峯寺ニ關スル地方ノ教務ハ金剛峯寺別院ヲシテ之ヲ處辨セシムルコトアル

ヘシ

- 第三十七條 本宗寺院住職ニシテ本山規定ノ學道ヲ勤修シ法薦高キ者ヲ順次法印ト稱シ宗祖御廟前供養ノ御衣ヲ被着シ恒例法會ノ導師ヲ勤修ス
- 第三十八條 勸學院ハ古格ノ學道法談ヲ相續シ事教ニ相ノ蘊奧ヲ究ムル所トス
- 第三十九條 一山所藏ノ國寶及其他ノ寶物ヲ保管シ且公衆ノ拜觀ニ供ス爲靈寶館ヲ設置ス
- 第四十條 總本山金剛峯寺所屬ノ建造物並什寶物ハ當該所管ノ執行之ヲ監護シ靈寶館出陳ノ什寶ニ限リ同館長之ヲ監護ス
- 第四十一條 總本山ノ寺法改廢制定並ニ重要ノ事項ヲ諮詢スル爲耆宿ヲ置ク
- 第四十二條 耆宿ハ八名トシ左記ニ依リ座主之ヲ特任シ其任期ハ四ケ年トス
  - 一、山内寺院住職中ヨリ四名
  - 一、山外本宗寺院住職中ヨリ四名
- 第四十三條 耆宿會ハ毎年一回之ヲ開キ必要事項ヲ諮詢スルモノトス



但緊急ヲ要スルトキハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

第四十四條 耆宿會ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十五條 總本山ノ維持及施設經營ニ關スル重要事項ヲ諮詢スル爲顧問會ヲ置ク

第四十六條 顧問ハ若干名トシ總本山ニ緣故アル篤信者又ハ學識德望ヨリ座主之ヲ囑託ス

第四十七條 顧問會ハ座主ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第四十八條 顧問會ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十九條 直末寺院ニ住職シタル者ハ一ヶ年以内ニ法流ヲ稟承スヘキモノトシ其拜具料

ヲ定ムルコト左ノ如シ

等級	金額
特等 一	貳百圓
同 二	百五十圓
同 三	百圓

同 四	七拾圓
同 五	五拾圓
等地 一	參拾圓
同 二	貳拾五圓
同 三	貳拾五圓
同 四	貳拾圓
同 五	貳拾圓
同 六	拾五圓
同 七	拾五圓
同 八	拾圓
同 九	拾圓
同 十	七圓

同	十一	七	圓
同	十二	五	圓
同	十三	五	圓
同	十四	四	圓
同	十五	四	圓
同	十六	參	圓
同	十七	參	圓
同	十八	貳	圓
同	十九	貳	圓
同	二十	壹	圓
同	二十一	壹	圓
同	二十二	壹	圓

同	二十三	五	拾	錢
同	二十四	五	拾	錢
同	二十五	五	拾	錢

第五十條 山内居住ノ僧侶ハ總テ金剛峯寺ニ交衆スヘキモノトス

第五十一條 山内住侶ハ古來因襲ノ法衣ヲ被着スヘキモノトス

第五十二條 山内重要ナル事項ヲ協議スル爲協議員ヲ置ク

第五十三條 協議員ハ十名トシ山内寺院住職ノ互選ニ依リ座主之ヲ任命ス

但任期ヲ滿三ケ年トス

第五十四條 協議員會ハ座主ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ協議員三名以上ノ同意ヲ以テ

要求アルトキハ之ヲ開ク

第五十五條 本寺法施行ニ關シ必要ノ規定ハ座主之ヲ定ム

第五十六條 補選ノ規則

第五十六條 本寺法ノ改正變更ハ耆宿會ノ協贊ヲ經宗會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ議決シ座主ノ承認ヲ經タル上主務官廳ノ認可ヲ得テ効力ヲ發生スルモノトス

### 宗祖廟前參籠規程

大正十五年六月二十五日告示第十號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規教師補任規則第十條及宗規總本山金剛峯寺々法第六條并ニ同第五十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 參籠ハ報恩謝德滅罪生善ノ意樂ニ出ツヘシ

第三條 參籠ハ二週間以上高野山奥ノ院參籠所ニ在リテ一日三時彌勒法ヲ嚴修スルモノトス

第四條 參籠成滿ノ者ニハ金剛峯寺座主ヨリ宗祖廟前參籠證ヲ下附ス

第五條 參籠セムト欲スル者ハ參籠願書ニ履歷書ヲ附シ支具料金五圓也ヲ添ヘテ金剛峯寺座主宛ニ願ヒ出ツヘシ

第六條 金剛峯寺ヨリ指定サレタル日時ニ必ス登山シ同寺々務所へ出頭スヘシ

第七條 參籠者ハ維那ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第八條 參籠者ハ例時行法ノ餘暇ト雖モ常ニ起居進退ヲ慎ミ造次モ密印三昧ニ住スルコトヲ忘ルヘカラス

第九條 高野山大學及舊私立高野山大學並ニ高野山中學卒業者若ハ修了者ハ在學中ノ廟參ヲ以テ參籠ニ代ヘ當該學長ノ具狀ニ依リ參籠證ヲ下附スルモノトス  
但支具料金壹圓五拾錢也ヲ納付スルヲ要ス

## 高野山境内整理規程

大正十五年六月廿五日告示第十號改テ發布 大正十五年十二月六日教令第二十三號改正

第一條 靈山神嚴維持ノ爲メ高祖一千百年ノ御遠忌ヲ期シ境内整理ヲ行フモノトス

第二條 整理區域ハ金剛峯寺總境内トス

第三條 整理ハ左ノ五區ニ分チ之ヲ行フ

一、奥之院境内

一、伽藍境内

一、寺院境内

一、山内住宅地

一、鶯谷住宅地

第四條 整理方法ハ左記各號ノ通り實行シ其統一ヲ期ス

イ、民有地ニシテ各寺院境内以外ノモノハ金剛峯寺所有ニ移管ス

ロ、官有地ニシテ金剛峯寺總境内中各寺院境内以外ハ金剛峯寺直接之ヲ管理ス

ハ、山林ハ風致保存上適當ノ施設ヲナスモノトス

ニ、墓地整理道路及河川ノ改修工作物ノ移動其他百般ノ施設

第五條 風致其他ノ必要上工作物ハ其位置又ハ構造ヲ制限スルモノトス

第六條 本整理事業ニ要スル經費ハ特別會計部ヨリノ交附金ニヨリ毎年度豫算ニ之ヲ計上ス

第七條 本整理事業ノ遂行ニ關シ土地收用ニ要スル代償ハ年賦償還證書ヲ發行シ之レニ充當ス

但年賦償還證書ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 境内整理ノ爲メ金剛峯寺ニ臨時境内整理課ヲ置ク

第九條 整理課ニ左ノ役職員ヲ置ク

評議員 二十五名  
 主任 一名  
 整理委員 若干名  
 技師 若干名  
 技術員 若干名  
 書記 若干名

第十條 評議員ノ組織左ノ如シ

金剛峯寺執行長及執行 三名  
 山内寺院住職ヨリ 四名  
 宗會議員ヨリ 三名  
 御遠忌局理事 一名  
 山内町家ヨリ 三名

本町長

本縣内務部長  
 全警察部長  
 全學務部長  
 全保安課長  
 全社寺課長  
 全土木課長  
 全衛生課長  
 粉河稅務署長  
 高野營林署長  
 全警察署長

山内寺院住職及町家ヨリ選出スルモノハ各任期ヲ三ケ年トシ宗會議員ヨリ選出スルモノ

ハ議員ノ任期ニ伴フモノトス  
各官廳ノ評議員ニシテ缺員ノ場合ハ其官廳ノ通牒ニ基キ相當代理者ノ出席ヲ認ムルコトヲ得但代理者ハ評議員トシテ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第十一條 評議員會ハ當該事業ニ關スル事項及豫算ヲ評定ス

評議員會ノ議長ハ執行ヲ以テ之レニ充ツ

評議員會ニ關スル必要ノ規定ハ普通會議法ヲ準用ス

第十二條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之レヲ定ム

### 高野山内協議員會規程

昭和四年四月十日認可

第一條 本規程ハ宗規總本山金剛峯寺々法第五十三條全五十五條ニ據リ之ヲ定ム

第二條 本會ニ於テ協議スヘキ事項左ノ如シ

- 一、山内法會法談ニ關スル重要事項
- 一、檀信徒ニ關スル山内寺院共通ノ重要事項
- 一、救濟慰問ニ關スル山内寺院共通ノ重要事項
- 一、山内風紀衛生等ニ關スル重要事項
- 一、西垣護持經營及整理等ニ關スル重要事項
- 一、寶物什器等ニ關スル山内寺院共通ノ重要事項
- 一、交通機關ノ開設山内道路ノ使用法其他諸種ノ新設備ニ關スル重要事項
- 一、其他金剛峯寺及山内寺院相互ニ關係ヲ有スル重要事項

第三條 協議員ノ選被選人ハ山内寺院正住職ニ限ル

第四條 投票ハ十名連記トス

第五條 前條以外ノ選舉ニ關スル規定ハ宗會議員選舉法ニ準スルモノトス

第六條 本會ニ議長一名ヲ置キ協議員ノ互選トス

但議長事項アル時ハ臨時議長ヲ互選ス

第八條 金剛峯寺執行長及執行ヲ番外委員トス

第九條 本會議ニ關スル事項ハ宗會議事細則ヲ準用ス

### 高野山靈寶館規程

大正十年三月一日施行

第一條 靈寶館ハ總本山金剛峯寺ノ管理ニ屬シ金剛峰寺及山内各院所藏ノ寶物ヲ收容シテ其保存ヲ構シ且ツ公衆ノ拜觀ニ供スルヲ以テ目的トス  
前項以外ノ寺院及ヒ信徒ノ所藏ニ係ルモノト雖モ其希望ニ依リ寄託ヲ受クルコトアルヘシ

第二條 本館ノ目的ヲ贊シ建築費又ハ維持費其ノ他什寶器具等ヲ寄附セラレタルモノ及ヒ本館ニ功勞アル人士ヲ館友ニ推薦シ左ノ待遇ヲ爲ス

- 一、推薦狀、優待券及靈寶帖ヲ贈呈ス
- 一、芳名錄ヲ永ク館内ニ保存ス
- 一、奥ノ院廟前ニ於テ二世ノ冥福ヲ祈ル

第三條 本館ハ年中無休開館ス

但整理其他ノ都合ニ依リ臨時閉館スルコトアルヘシ

第四條 春夏秋冬ノ三季節ニ於テ一定ノ期間ヲ限リ「特別拜觀日」トシ最優秀ノ靈寶ヲ出陳ス

第五條 本館ハ左ノ事業ヲ經營ス

- 一、金剛峰寺及山内寺院所藏寶物ノ整理及ヒ修理
- 一、目錄、寫真帖、繪端書等ノ編製發行

一、高野山ノ靈寶物ニ關スル専門的研究ノ編纂發行

二、宗教美術ニ關スル講演會ノ開催

一、毎年一回又ハ數回館報ノ發行

第六條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

一、館長 一名 一、主事 一名

一、書記 若干名 一、看守長 一名

一、看守 若干名

第七條 館長ハ座主ノ命ヲ受ケ職員ヲ統督シ本館一切ノ事務ヲ總理ス

主事ハ館長ノ命ヲ受ケ寶物ノ出陳保管、保存修理、目錄調製等一切ノ事務ニ就事ス

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

看守長ハ上司ノ命ヲ受ケ看守ヲ指揮監督シ監守ノ責ニ任ス

看守ハ上司ノ命ヲ受ケ監守ニ從事ス

第八條 館長ハ座主之ヲ特任シ主事書記ハ館長ノ推薦ニ依リ座主之ヲ任命シ看守長以下ハ館長之ヲ任命ス

第九條 本館ニ顧問若干名評議員若干名ヲ置キ本館ニ關スル重要ノ事項ヲ諮詢ス

顧問ハ館友中斯道ニ堪能ナル人士ニ就キ座主之ヲ推薦囑託シ評議員ハ館友中金壹千圓以上又ハ之ト同等ノ物件寄附者若ハ特ニ本館ニ功勞アル人士ニ就キ座主之ヲ推薦ス

第十條 顧問會及ヒ評議員會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開催ス

第十一條 館長以下職員及雇員ニハ相當ノ手當ヲ支給ス

顧問、評議員ハ名譽職トス

但顧問ニハ慰勞ヲ贈呈スルコトアルヘシ

第十二條 本館ハ一定ノ拜觀料ヲ徴収ス

第十三條 本館會計ハ特別會計トシ本館拜觀料其他ノ收入ヲ以テ歲入トシ本館一切ノ經費ヲ歲出トシ毎年豫算ヲ作り宗旨ノ協賛ヲ經テ實行スルモノトス



第十四條 本館ニ出陳寄託スル山内寺院所藏ノ寶物ニハ出陳料ヲ交付スルコトアルヘシ

附 則

第十五條 本規程施行ニ關シ必要ノ規定ハ隨時之ヲ定ム

第十六條 本規程ハ大正十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

高野山靈寶館規程施行細則

大正十年三月一日施行大正十一年三月十三日、昭和二年一月二十五日改正

總 則

第一條 本細則ハ靈寶館規程第十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本館ニ關スル事務處辨ノ爲メ管理所ヲ置キ規程第六條ノ職員ヲ以テ組織ス

拜觀及館内禁制

第三條 開館時間ハ左ノ通り大別シ時々告示ヲ以テ之ヲ定ム

一月、二月ハ 午前九時ヨリ 午後三時マテ

三月、四月十五日マテ 午前八時ヨリ 午後四時マテ

四月十六日ヨリ八月マテハ 午前七時ヨリ 午後五時マテ

九月ヨリ十月マテハ 午前八時ヨリ 午後四時マテ

十一月ヨリ十二月マテハ 午前九時ヨリ 午後三時マテ

第四條 拜觀料ハ左ノ通りトス

一人分 金參拾錢 但十歳以下ハ無料トス

主宰者ノ引率スル團體ハ左ノ通りトス

五十人以上 一人分 金貳拾五錢

百人以上 一人分 金貳拾錢

二百人以上 一人分 金拾五錢

教員ノ引率スル學生生徒及統率者アル軍人ハ總テ一人分金拾五錢トス小學生ハ金拾錢トス

第五條 規程第四條ノ「特別拜觀日」ハ左ノ通りトス、其期間ニ限リ拜觀料一人分金五拾錢トス

但一切割引セス

五月十五日ヨリ廿一日マテ 七日間

八月十五日ヨリ廿一日マテ 七日間

十一月一日ヨリ七日マテ 七日間

第六條 拜觀券ハ靈寶館入口ニテ發賣ス

但山内寺院及其他ニテ發賣スルコトアルヘシ

第七條 拜觀券ノ雛形左ノ如シ



折斷スヘキミシン

注意

- 一本券ニ主事ノ捺印ナキモノハ無効トス
- 一本券ハ館ニ入ル時看守ニ示シテ折斷ヲ受ケ館ヲ出ル時看守ニ渡サルヘシ
- 一拜觀人ハ本館揭示ノ規定ヲ遵守セララルヘシ

裏面ニ

以上

地、綠色小紋、巴桐  
兩紋ヲ白貫ニテ上部  
ニ置ク

下部ニ主事ノ印ヲ捺  
ス

第八條 拜觀人ハ拜觀券ヲ館ニ入ル時看守ニ示シ出ル時看守ニ渡スモノトス

第九條 拜觀券ヲ携フルモ狂疾或ハ酩酊者ト認ムルトキハ館ニ入ルコトヲ拒絕シ又ハ退場ヲ要求スヘシ

第十條 拜觀人ハ外來履物ノマ、ニテ館ニ入ルヘカラス

第十一條 拜觀人ハ外套及帽子ヲ脱シ裾掲ケテ卸サルヘシ

第十二條 拜觀人ハ杖、傘又ハ手荷物等ヲ携帯シテ館ニ入ルヘカラス

但小形ノ手提鞆、袋等係員ノ容認セルモノハ此限リニアラス

第十三條 本館ハ佛像等ヲ安置セルヲ以テ拜觀人ハ相當敬意ヲ以テ拜觀セラレタシ

第十四條 館内ニ於テ萬年筆ヲ使用スヘカラス

第十五條 畜類ヲ伴ヒ館ニ入ルヘカラス

第十六條 館内ニテ喫烟又ハ飲食スヘカラス

第十七條 拜觀人許容ナクシテ館内ニ於テ撮影又ハ模寫スヘカラス

第十八條 館内ニ於テ絶對ニ火ヲ用フルコトヲ禁ス

第十九條 拜觀人ハ大聲ヲ發シ喧噪スヘカラス

第二十條 拜觀人前諸條ニ違背スルトキハ拜觀ヲ拒絕シ又ハ退場ヲ要求スヘシ

第二十一條 拜觀人若シ佛体物品又ハ建造物ヲ汚損又ハ毀損シタルトキハ相當ノ代償ヲ要

求ス

第二十二條 前諸條ハ見易キ所ニ揭示シアルヲ以テ拜觀人ハ之ヲ了知セルモノト看做ス

第二十三條 陳列セル佛体物品以外ノ寶物ハ拜觀ヲ謝絶ス

職員

第二十四條 主事ハ管理所ニ出勤シ規程第七條ノ執務ノ外時々館ノ内外ヲ巡察シ諸般ノ事

項ヲ考察スヘシ

第二十五條 主事ハ來賓ニ應接シ待遇上遺憾ナキヲ期スヘシ

第二十六條 主事ハ書記以下諸員ヲ監督シ其勤惰ヲ監查スヘシ

第二十七條 書記ハ管理所ニ於ケル書類、帳簿、書籍、物品ヲ保管スヘシ

第二十八條 書記ハ主事不在又ハ差支アルトキハ其事務ヲ代理スヘシ

第二十九條 書記ハ規程第七條ノ執務ノ外時々内外ヲ巡廻シ物件ノ保護ニ注意スヘシ

第三十條 看守長及看守ハ館内ヲ巡視シ建造物及物品ヲ監守スヘシ

第三十一條 看守長ハ毎日定刻前ニ出頭シ館扉ノ鍵ヲ受取り開館シ閉館ノ際ハ各看守ト俱

ニ館内ヲ巡視シ異狀ナキヲ認メタル上各窓扉及館扉ヲ閉鎖シ錠ヲ卸シ鍵ヲ宿直ニ渡スヘシ

第三十二條 看守長及看守ハ毎日開館第一ニ館内ヲ巡視シ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢スヘシ、

若シ異狀アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ管理所ニ通告スヘシ平時ニ於ケルモ亦同シ

第三十三條 看守長及看守ハ拜觀人ニ對シ諸事懇切ニ扱フヘシ決シテ粗暴不遜ノ言動ヲ爲

スヘカラス

第三十四條 看守ハ毎日閉館ニ際シ館内ヲ掃除スヘシ開館中ト雖モ必要ニ應シ部分ノ掃除

ヲ爲スヘシ

第三十五條 看守長及看守ハ毎月一回大掃除ヲ爲スヘシ

第三十六條 看守ニハ特ニ拜觀券發賣ノ事ヲ分擔セシムル事アルヘシ

第三十七條 看守長ハ看守ノ勤惰ヲ查察シ之ヲ督勵スヘシ

宿 直

第三十八條 宿直ハ書記及看守長更代ニ之ヲ勤番ス

第三十九條 宿直ハ閉館後開館マテ諸般ノ取締ニ任シ時々館ノ周圍及附近ヲ巡視シ夜警ヲ

監督スヘシ

第四十條 宿直ハ閉館中發生シタル事件ノ緩急ニ應シ主事其他諸員又ハ金剛峯寺事務所

ニ通告スヘシ

第四十一條 宿直ハ館ノ内外ニ異變ヲ發見シタルトキハ直ニ主事及金剛峰寺事務所ニ通告

スヘシ

第四十二條 宿直ハ本館ノ鍵ヲ保管ス

夜 警

第四十三條 夜警ヲ置キ夜間館ノ周圍附近ヲ巡警セシム

第四十四條 夜警ノ勤務ハ日没ヨリ日出マテトス

第四十五條 夜警勤務中異變アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ宿直ニ通告スヘシ

附 則

本細則ニ規定セル外ハ別ニ内規ヲ以テ之ヲ定ム

### 宗規大本山仁和寺寺法

昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

大本山仁和寺ハ寛平法皇ノ敍創シ給フ所ニシテ法皇ハ宗祖弘法大師第五世ノ正嫡ニシテ廣澤御流ノ元祖ナリ是ヲ以テ本山ヲ御室門跡ト公稱シ皇子皇孫相踵テ入室シ給ヒ相承ノ尊嚴ナルハ當門跡ノ規模ニシテ其法流ヲ末徒ニ相傳シ師々相承ケ弟々相付シ傳法ノ印璽ヲ傳ヘ以テ法脈ノ正統ヲ示セリ、茲ニ此寺法ヲ制定シ開山法皇ノ聖旨ヲ奉體シテ本末齋シク遵守スヘキ規準ヲ明ニス

#### 第一章 總 則

第一條 本法ハ宗憲第七章第五十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 大本山ハ左ノ法流ヲ以テ所傳トス

##### 一、廣澤御流

大本山仁和寺寺法

一、西院流

一、保壽院流

一、忍辱山流

一、傳法院流

一、華藏院流

第三條 大本山住職ハ古來ノ芳躅ヲ表彰センカ爲ニ門跡ト稱ス

第二章 門跡

第四條 門跡ハ宗憲宗規ノ定ムル處ニ依リ就職スルモノトス

第五條 門跡ハ寶祚無窮國家安寧ノ祈願其他恒例ノ法會ヲ勤修ス

第六條 門跡ハ直末寺住職ニ法流ヲ印可ス

第七條 門跡ハ大本山ノ事務ヲ總攬ス

第八條 門跡ハ大本山事務ニ關スル必要ナル告示諭達ヲ發ス

第九條 門跡ハ特請若ハ必要ト認メタルトキ親教シ又ハ布教師ヲ巡教セシム

第十條 門跡ハ直末寺ノ諸願ニ對シ副申ヲ與フ

第三章 寺務所

第十一條 大本山ニ事務所ヲ置キ諸般ノ事務ヲ處理ス

第十二條 寺務所ニ執行一名、主事二名、書記若干名、雇員若干名ヲ置ク

第十三條 執行ハ宗務所總務ノ推薦ニ依リ門跡ノ同意ヲ得テ管長之ヲ任命ス其任期ハ總務

ノ任期ニ從フ

第十四條 主事以下ハ執行ノ推薦ニ依リ門跡之ヲ任命シ主事ノ任期ヲ四ケ年トス

第十五條 執行ハ門跡ヲ補佐シ各課ノ事務ヲ統理シ其責ニ任ス

第十六條 主事ハ門跡及執行ノ命ヲ受ケ各課ノ事務ヲ分掌ス

書記以下ハ上長ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス

第十七條 寺務所ニ庶務會計ノ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

庶務課

- 一、諸官衙ニ關スル事項
  - 一、各宗派本山並ニ末寺ニ關スル事項
  - 一、教會講社其他教務ニ關スル事項
  - 一、花道ニ關スル事項
  - 一、念佛修行者ニ關スル事項
  - 一、諸記録帳簿整理ニ關スル事項
  - 一、他課ノ主掌ニ屬セサル事項
- 會計課
- 一、堂宇營繕構内取締ニ關スル事項
  - 一、歳入歳出及一切ノ財産ニ關スル事項
  - 一、法流印可及法會儀式ニ關スル事項

- 一、寶物什器及圖書保管ニ關スル事項
- 一、各種財團ニ關スル事項

第四章 顧問會

第十八條 本法ノ制定改廢並ニ重要ノ事項ヲ諮詢スル爲顧問會ヲ置ク

第十九條 顧問ハ五名トシ左記ニ依リ門跡之ヲ特任シ其任期ヲ四ケ年トス

一、宗務所總務一名

一、本宗寺院住職中ヨリ四名

第二十條 顧問會ハ門跡ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ

第二十一條 顧問會ニ關スル規定ハ門跡之ヲ定ム

第五章 末寺住職及檀信徒

第二十二條 末寺及檀信徒ハ大本山ノ維持興隆ニ努ムヘキモノトス

第二十三條 直末寺ニ住職シタルモノハ住職任命後一ケ年以内ニ大本山ノ法流ヲ稟承スヘ

其拜具料ヲ定ムルコト左ノ如シ

等級 金額

- 特等 一 貳百圓
- 同 二 百五十圓
- 同 三 百圓
- 同 四 七拾圓
- 同 五 五拾圓
- 等地 一 參拾圓
- 同 二 貳拾五圓
- 同 三 貳拾五圓
- 同 四 貳拾圓

大本山仁和寺寺法

- 同 五 貳拾圓
- 同 六 拾五圓
- 同 七 拾五圓
- 同 八 拾圓
- 同 九 拾圓
- 同 十 七圓
- 同 十一 七圓
- 同 十二 五圓
- 同 十三 五圓
- 同 十四 四圓
- 同 十五 四圓
- 同 十六 參圓



同	十七	參	圓
同	十八	貳	圓
同	十九	貳	圓
同	二十	壹	圓
同	二十一	壹	圓
同	二十二	壹	圓
同	二十三	五拾	錢
同	二十四	五拾	錢
同	二十五	五拾	錢

第六章 會計

第二十四條 大本山ノ經常費臨時費歳入歳出ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ宗會ノ協賛ヲ經テ執行ス

第二十五條 下賜金交付金其他ノ收入ヲ以テ歳入トシ大本山ニ關スル一切ノ經費ヲ歳出トス

第二十六條 會計年度ハ四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二十七條 歳入歳出ノ決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ編成シ會計監査員ノ監査ヲ經テ宗會ノ承認ヲ求ムルモノトス

第二十八條 本章ノ外會計ニ關スル規定ハ宗規會計規則ヲ準用ス

補則

第二十九條 宗憲第九十四條規定ノ本山維持基金參拾萬圓也ノ積立方法ハ左記ノ通リトス

一金五萬圓也 仁和寺現在金繰込

一金六千參百五拾圓宛 大正十五年度ヨリ向フ三ケ年間 毎年宗派負擔積立

一金九千五百圓也宛 大正十八年度ヨリ向フ八ケ年間 毎年宗派負擔積立

前各項基金ハ利倍増殖スルモノトシ尙不足額ハ本山當局ニ於テ責任ヲ以テ期限内ニ寄附  
其他ノ方法ニ依リ定額ニ達セシムルモノトス

前項基金ハ宗會ノ協賛ヲ經テ財團ヲ設立シ之ヲ保管スルモノトス

第三十條 大本山ニ舊御室御所花道事務所ヲ置キ花道ニ關スル事務ヲ處理ス  
但花道ニ關スル規則ハ門跡之ヲ定ム

第三十一條 本法規定ノ外古來ノ慣例ハ之ヲ襲踏ス

第三十二條 本法ノ改正變更ハ顧問會ノ協賛ヲ經宗會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以  
テ議決シ門跡ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ得テ効力ヲ發生スルモノトス

第三十三條 本法施行ニ關スル必要ノ規定ハ門跡之ヲ定ム

### 古義真言宗仁和寺護持財團寄附行爲

昭和二年九月九日設立認可、昭和四年九月二日改正認可

#### 第一章 目的

第一條 本財團ハ古義真言宗仁和寺ノ維持經營ニ必要ナル費用ヲ供給スルヲ以テ目的ト  
ス

#### 第二章 名稱

第二條 本財團ヲ古義真言宗仁和寺護持財團ト稱ス

#### 第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ヲ京都府葛野郡花園村大字御室六十八番戸仁和寺内ニ置ク

#### 第四章 資産ニ關スル規定

第四條 本財團ノ資産ハ左ノ如シ

一、設立者ノ寄附ニ係ル別紙財産目錄所掲ノ資産

古義真言宗仁和寺護持財團寄附行爲

二、古義真言宗々所ノ交附ニ係ル資産

三、篤志者ノ寄贈ニ係ル資産

四、第一號、第二號、第三號ノ資産ヨリ生スル果實及ヒ其他ノ收入

第五條 第四條第一號、第二號、第三號ノ資産ヲ基本財産トシ如何ナル場合ト雖モ之ヲ消費シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第六條 本財團ノ經費ハ基本財産ヨリ生スル果實及ヒ其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 基本財産ハ國債證券又ハ三府ノ市公債勸業銀行債券各府縣農工銀行債券ニ換ヘ日本銀行ニ保護寄托ヲナスモノトス但シ其金額債券ニ換フルニ不足ナル場合ハ其不足期間ニ限り確實ナル銀行ニ預金トシテ之ヲ保管ス

第八條 本財團ノ目的ヲ賛成シ資産ヲ寄贈スルモノアルトキハ之ヲ受納スルコトヲ得前項ノ資財ハ總テ本財團ノ基本財産中ニ編入ス可シ

第一項ノ資財寄贈者ノ姓名ハ本財團ノ帳簿ニ記入シ領收證ヲ交附ス

第九條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條 理事ハ毎年度收支豫算ヲ調製シ年度開始前ニ評議員會ノ議決ヲ經ヘシ其ノ決議ヲ經ルコト能ハサル時ハ前年度ノ豫算ニ依ル理事ハ毎年度經過後一ヶ月以内ニ前年度ノ收支決算表ヲ作り前年度末現在ノ財産目錄ヲ添ヘ次回ノ評議會ニ報告シテ承認ヲ求ムヘシ毎年度ノ收支決算剩餘金壹百圓以上ナルトキハ其ノ十分ノ七ヲ基本財産ニ編入シ其ノ十分ノ三ヲ翌年度ニ繰越シ又壹百圓未満ナルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越スモノトス

第十一條 本財團ハ負債ヲ爲スコトヲ得ス

## 第五章 役員

第十二條 本財團ニ理事一名、監事二名ヲ置ク

第十三條 理事、監事ハ左ノ範圍ニ於テ仁和寺門跡ノ推薦ニ依リ古義真言宗管長之ヲ任命ス

一、理事一名ハ仁和寺執行

古義真言宗仁和寺護持財團寄附行爲

一、監事ハ古義真言宗々務所役員中ヨリ一名古義真言宗寺院住職中ヨリ一名

第十四條 理事、監事ノ任期ハ宗務所及寺務所役員並ニ宗會議員中ヨリ推薦ノ者ハ其任期

ニ依リ寺院住職中ヨリ推薦ノ者ハ三ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス

理事、監事ハ住期中ト雖モ仁和寺門跡ニ於テ不適任ト認メタル時ハ古義真言宗管長ニ具

伸シ管長之ヲ解任スルコトヲ得

理事、監事滿期退任ノ場合ハ後任者就職ノ日マテ在任スルモノトス

第十五條 理事、監事補缺ノ場合ニ於ケル後任者ノ任期ハ前任者ノ殘任期ヲ限リトス

第十六條 理事、監事ハ第十三條ノ資格ヲ失ヒタル時ハ自然失職スルモノトス

第十七條 理事、監事ニ對シテハ評議員會ノ議定シタル金額ヲ手當トシテ給與ス

### 第六章 會 議

第十八條 評議員會ハ評議員六名ヲ以テ組織シ毎年一回開會シ理事之ヲ召集ス

但シ場合ニヨリ其議決又ハ承認ハ文書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ評議員

總數ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決スルモノトス

第十九條 評議員會ノ召集ハ一週間以前ニ之ヲ爲ス但シ臨時會ハ此限リニアラス

第二十條 評議員ハ仁和寺門跡ノ推薦ニ依リ古義真言宗管長ニ於テ左ノ區分ニ依リ之ヲ任

免ス

一、古義真言宗々會議員中ヨリ二名

一、古義真言宗々務所役員中ヨリ一名

一、仁和寺々務所役員中ヨリ一名

一、古義真言宗寺院住職中ヨリ二名

第二十一條 評議員ノ任期及失職ニ付テハ第十四條第十六條ヲ準用ス

第二十二條 評議員會ノ議長ハ理事之ニ當ル理事故障アルトキハ評議員會ニ於テ評議員ノ互

選ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 評議員會ハ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但シ召集再回ニ及フモ尙ホ其數ニ充タサル時ハ此ノ限リニ非ス

第廿四條 評議員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第廿五條 評議員會ハ本寄附行爲ニ規定セル事項及ヒ理事ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ議決ス

評議員ハ何時タリトモ本財團ノ事務及資金ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第廿六條 評議員會ノ決議ハ仁和寺門跡ノ承認ヲ經古義真言宗管長ノ認可ヲ得テ施行ス

### 第七章 附 則

第廿七條 本寄附行爲ハ仁和寺門跡ノ提議ニ依リ評議員會ニ於テ總員三分ノ二以上ノ同意

決議ヲ得タル上古義真言宗管長ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第廿八條 本財團設立ノ際第十三條ニ依リ理事任命ニ至ル迄ノ間理事ハ設立者ニ於テ之ヲ指名ス

第廿九條 本財團ノ執務細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

## 宗規大本山大覺寺々法

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和六年三月二十日修正

大本山ハ貞觀聖帝ノ御宇 嵯峨天皇ノ離宮ヲ以テ大覺寺ト勅稱セラレ宗祖弘法大師第三世ノ法孫恒寂入道親王ヲ開山ト仰キ廣澤御流ノ源泉ヲ開キ次テ 後宇多法皇ハ中興第一世トナラセラレ皇子皇孫相踵テ入室シ給フ此間 清和、宇多、後嵯峨、龜山、後醍醐、後水尾等歷代ノ聖帝何レモ當山ニ於テ法流ヲ稟ケサセ給ヒ御流相承ノ神聖且ツ尊嚴ナルハ當門跡ノ規模ニシテ其法流ヲ末徒ニ相傳シ嫡々法脈ノ正統ヲ示シ以テ今日ニ至レリ

茲ニ寺法ヲ制定シ開山親王中興法皇ノ聖旨ヲ奉體シテ本末齊シク遵守スヘキ規準ヲ明ニス

### 第一章 總 則

第一條 本法ハ宗憲第七章第五十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 大本山ハ左ノ法流ヲ以テ所傳トス

一、廣澤御流

一、西院流

一、保壽院流

一、忍辱山流

一、傳法院流

一、華嚴院流

第三條 大本山住職ハ古來ノ芳躅ヲ表彰センカ爲ニ門跡ト稱ス

第二章 門跡

第四條 門跡ハ宗憲宗規ノ定ムル所ニ依リ就職スルモノトス

第五條 門跡ハ寶祚無窮國家安寧ノ祈願其他恒例ノ法會ヲ勤修ス

第六條 門跡ハ直末寺院住職ニ法流ヲ印可ス

第七條 門跡ハ本山ノ事務ヲ總攬ス

第八條 門跡ハ大本山ノ事務ニ關シ必要ナル告示諭達ヲ發ス

第九條 門跡ハ特請若ハ必要ト認メタルトキ親教シ又ハ布教師ヲ巡教セシム

第十條 門跡ハ直末寺ノ諸願ニ對シ副申ヲ與フ

第三章 寺務所

第十一條 大本山ニ寺務所ヲ置キ諸般ノ事務ヲ處理ス

第十二條 寺務所ニ執行一名、主事二名、書記若干名、雇員若干名ヲ置ク

第十三條 執行ハ宗務所總務ノ推薦ニ依リ門跡ノ同意ヲ得テ管長之ヲ任命ス其任期ハ總務ノ任期ニ從フ

第十四條 主事以下ハ執行ノ推薦ニ依リ門跡之ヲ任命シ主事ノ任期ヲ四ケ年トス

第十五條 執行ハ門跡ヲ補佐シ各課ノ事務ヲ統理シ其責ニ任ス

第十六條 主事ハ門跡及執行ノ命ヲ受ケ各課ノ事務ヲ分掌ス  
書記以下ハ上長ノ指揮ヲ受ケ寺務ニ従事ス

第十七條 寺務所ニ庶務會計ノ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

庶務課

一、諸官衙ニ關スル事項

一、各宗派本山并ニ末寺ニ關スル事項

一、教會講社其他教務ニ關スル事項

一、花道ニ關スル事項

一、諸記録帳簿整理ニ關スル事項

一、他課ノ主掌ニ屬セサル事項

會計課

一、歲入歲出及一切ノ財産ニ關スル事項

一、堂宇營繕境內取締ニ關スル事項

一、法流印可及法會儀式ニ關スル事項

一、寶物什器及圖書保管ニ關スル事項

一、各種財團ニ關スル事項

第四章 顧問會

第十八條 本法ノ制定改廢并ニ重要ノ事項ヲ諮詢スル爲顧問會ヲ置ク

第十九條 顧問ハ五名トシ左記ニ依リ門跡之ヲ特任シ其任期ヲ四ケ年トス

一、宗務所總務一名

一、本宗寺院住職中ヨリ四名

第二十條 顧問會ハ門跡ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第二十一條 顧問會ニ關スル規定ハ門跡之ヲ定ム

第五章 末寺住職及檀信徒

第二十二條 末寺及檀信徒ハ當大本山ノ維持興隆ニ努ムヘキモノトス

第二十三條 直末寺ニ住職シタルモノハ住職任命後一ケ年以内ニ大本山ノ法流ヲ稟承スヘ

シ

其拜具料ヲ定ムルコト左ノ如シ

等級 金額

特等	一	貳百圓
同	二	百五十圓
同	三	百圓
同	四	七拾圓
同	五	五拾圓
等地	一	參拾圓
同	二	貳拾五圓

同	三	貳拾五圓
同	四	貳拾圓
同	五	貳拾圓
同	六	拾五圓
同	七	拾五圓
同	八	拾圓
同	九	拾圓
同	十	七圓
同	十一	七圓
同	十二	五圓
同	十三	五圓
同	十四	四圓



同	十五	四	圓
同	十六	參	圓
同	十七	參	圓
同	十八	貳	圓
同	十九	貳	圓
同	二十	壹	圓
同	二十一	壹	圓
同	二十二	壹	圓
同	二十三	五	錢
同	二十四	五	錢
同	二十五	五	錢
第六	章	會	計

第二十四條 大本山ノ經常費臨時費歳入歳出ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ宗會ノ協賛ヲ經テ執行

第二十五條 下賜金交付金其他ノ收入ヲ以テ歳入トシ大本山ニ關スル一切ノ經費ヲ歳出ト

第二十六條 會計年度ハ四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二十七條 歳入歳出ノ決算ハ豫算ト同一區分ニ依リ編成シ會計監査員ノ監査ヲ經テ宗會

ノ承認ヲ求ムルモノトス

補 則

第二十八條 本章ノ外會計ニ關スル規定ハ宗規會計規則ヲ準用ス

第二十九條 宗憲第九十四條規定ノ大本山維持基金貳拾萬圓也ノ積立方法ハ左記ノ通りト

一金四萬圓也

大覺寺現在金繰込

一金參千六百五拾圓也宛

大正十五年度ヨリ向フ三ヶ年間  
毎年宗派負擔積立

一金五千五百圓也宛

大正十八年度ヨリ向フ八ヶ年間  
毎年宗派負擔積立

前各項基金ハ利倍増殖スルモノトシ不足額ハ本山當局ニ於テ責任ヲ以テ期限内ニ寄附其  
他ノ方法ニ依リ定額ニ達セシムルモノトス

前項基金ハ大覺寺護法財團ニ編入シ宗會ノ協賛ヲ經テ之ヲ保管スルモノトス

第三十條 大本山ニ舊嵯峨御所花道總司所ヲ置キ花道ニ關スル事務ヲ處理ス

但花道ニ關スル規則ハ門跡之ヲ定ム

第三十一條 本法規定ノ外古來ノ慣例ハ之ヲ襲踏ス

第三十二條 本法ノ改正變更ハ顧問會ノ協賛ヲ經宗會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以

テ議決シ門跡ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ得テ効力ヲ發生スルモノトス

第三十三條 本法施行ニ關スル必要ノ規定ハ門跡之ヲ定ム

### 古義真言宗大覺寺護法財團寄附行爲

大正五年十月三日設立認可、大正十五年五月十八日、昭和五年六月十六日變更認可

#### 第一章 目的

第一條 本財團ハ古義真言宗大覺寺ノ維持經營並布教教育ニ必要ナル費用ヲ供給スルヲ  
以テ目的トス

#### 第二章 名稱

第二條 本財團ヲ古義真言宗大覺寺護法財團ト稱ス

#### 第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ヲ京都府葛野郡嵯峨町字大澤四番地大覺寺内ニ置ク

#### 第四章 資産ニ關スル規定

第四條 本財團ノ資産ハ左ノ如シ

古義真言宗大覺寺護法財團寄附行爲

- 一、設立者ノ寄附ニ係ル別紙財産目錄所掲ノ資産
- 二、古義真言宗々務所ノ交附ニ係ル資産
- 三、篤志者寄贈ニ係ル資産
- 四、第一號、第二號、第三號ノ資産ヨリ生スル果實及其他ノ收入
- 第五條 第四條第一號、第二號、第三號ノ資産ヲ基本財産トシ如何ナル場合ト雖モ之ヲ消費スルコトヲ得ス
- 第六條 本財團ノ經費ハ評議員會ノ議決ヲ經テ基本財産ヨリ生スル果實及其他ノ収入ヲ以テ之ニ充ツ
- 第七條 本財團ハ基本財産總額貳拾萬圓也ニ達スルマテハ基本財産ヨリ生スル收益ノ少クトモ五分ノ四已上ヲ基本財産ニ編入スヘキモノトス
- 第八條 基本財産ハ國債證券又ハ三府ノ市公債勸業行銀債券各府縣農工銀行債券ニ換ヘ日本銀行又ハ確實ナル銀行ニ保護寄托ヲナスモノトス

但シ其金額債券ニ換フルニ不足ナル場合ハ其不足ナル期間ニ限り確實ナル銀行ニ預金トナシ之ヲ保管ス

第九條 本財團ノ目的ヲ賛成シ資財ヲ寄贈スルモノアルトキハ之ヲ受納スルコトヲ得前項ノ資財ハ總テ本財團ノ基本財産中ニ編入スヘシ

前項寄贈者ノ姓名ハ本財團ノ帳簿ニ記入シ領收書ヲ交附ス

第十條 基本財産ハ評議員會ノ決議ニ依リ古義真言宗管長ノ承認ヲ經タル場合ニ限り第八條ノ規定ニ拘ラス不動産ニ換フルコトヲ得

第十一條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十二條 理事ハ毎年收支豫算ヲ調製シ年度開始一ヶ月前ニ評議員會ノ議決ヲ經ヘシ

理事ハ毎年度ノ始メ一ヶ月以内ニ財産目錄及前年度ノ收支決算表ヲ作り次回ノ評議員會ニ報告シテ承認ヲ求ムヘシ

毎年度收支決算剩餘金ハ評議員會ノ議決ニ依リ之ヲ基本財産ニ編入シ若クハ翌年度ニ繰

越スコトヲ得

第五章 役員

第十三條 本財團ニ理事二名（内一名ヲ理事長トス）評議員六名、監事二名、書記若干名ヲ置ク

第十四條 理事、評議員、監事ハ左ノ範圍ニ於テ設立者ノ推薦ニ依リ古義真言宗管長之ヲ任命シ、書記ハ理事之ヲ任免ス

一、理事ハ大覺寺執行、大覺寺主事

一、評議員ハ古義真言宗々會議員中ヨリ二名、古義真言宗々務所役員中ヨリ一名、大覺寺々務所役員中ヨリ一名、大覺寺末寺院住職中ヨリ二名

一、監事ハ古義真言宗々務所役員中ヨリ一名、大覺寺末寺院住職中ヨリ一名

第十五條 理事、評議員、監事ノ任期ハ三ケ年トシ別ニ任期アルモノハ其任期ニ依ルモノトス

但シ再任ヲ妨ケス

理事、評議員、監事ハ任期中ト雖モ設立者ニ於テ不適當ト認メタル時ハ古義真言宗管長ニ具伸シ管長之ヲ解任スルコトヲ得

理事、評議員、監事満期退任ノ場合ハ後任者就職ノ日マテ在任スルモノトス

第十六條 理事、評議員、監事補缺ノ場合ニ於ケル後任者ノ任期ハ前任者ノ殘任期ヲ限リトス

第十七條 理事長ハ大覺寺執行ヲ以テ之ニ充テ本財團ヲ代表シ本財團ノ事務ヲ總理シ評議員會ニ於テ議長トナル

理事ハ理事長ヲ補佐シ事務ニ從事ス

理事長事故アルトキハ理事之ヲ代理ス

第十八條 評議員ハ評議員會ニ出席シ議員タルノ職務ヲ行フ

第十九條 理事、評議員、監事、書記ニ對シテハ評議員會ノ議定シタル金額ヲ手當トシテ

給與ス

第六章 會 議

第二十條 評議員會ハ毎年一回開會シ理事長之ヲ召集ス

但シ設立者又ハ理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ若ハ監事ヨリ請求アリタルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第二十一條 評議員會ノ召集ハ一週間以前ニ之ヲ爲ス

但シ臨時會ハ此限リニアラス

第二十二條 評議員會ハ定員三分ノ二以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス

但シ召集再會ニ及フモ尙ホ其數ニ充タサル時ハ此限リニ非ス

第二十三條 評議員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス、可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 評議員會ハ本寄附行爲ニ規定セル事項及設立者並理事長ニ於テ必要ト認メタル

事項ヲ議決ス

第二十五條 評議員會ノ決議ハ設立者ノ承認ヲ經古義真言宗管長ノ許可ヲ得テ施行ス

第七章 附 則

第二十六條 本財團設立者ノ權利ハ代々ノ大覺寺門跡之ヲ繼紹ス

第二十七條 將來本寄附行爲ヲ變更セントスルトキハ大覺寺門跡ノ提議ニ依リ評議會ニ於テ

定員三分ノ二以上ノ同意決議ヲ得タル上古義真言宗管長ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十八條 本財團ノ事務細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌報讚會趣意書並規定

# 御遠忌

弘法大師一千百年御遠忌大法會執行規定

御遠忌大法會總豫算

御遠忌大法會賦課金徵集法

寺院及檀徒賦課金

弘法大師一千百年御遠忌報讚會趣意書並規定

御遠忌事務局職制

御遠忌大勸進教區規程

## 弘法大師一千百年御遠忌大法會執行規定

元高野派部會ノ協賛ヲ經大正十三年十二月十三日認可、大正十五年四月七日教令第十號改メテ發布、大正十五年十二月六日教令第二十三號、昭和二年四月一日教令第二十八號、昭和三年十一月十九日教令第四十號、昭和六年二月二十日教令第五十九號改正

第一條 昭和九年ハ高祖御入定一千百年正當ニ付御遠忌大法要ヲ高野山ニ於テ奉修ス

第二條 御遠忌大法會執行期間ハ昭和九年四月二日ヨリ五月二十一日ニ至ル五十日間トス

第三條 御遠忌大法會ニハ本宗寺院住職ヲ參列セシメ且ツ眞言宗各派寺院住職並ニ各宗派寺院住職ノ隨喜參列ヲ勸誘ス

第四條 御遠忌大法會ニハ廣ク内外各地ヨリ本宗檀徒及一般大師信者ノ參拜ヲ獎勵ス

第五條 御遠忌記念事業トシテ左記事項ヲ經營ス

### 一、金堂再建

弘法大師一千百年御遠忌大法會執行規定

一、根本大塔再建

一、高野山圖書館建設

一、記念出版

第六條 本宗布教ハ御遠忌大法會ヲ記念スル爲メ廣ク内外各地ニ亘リ大正十四年ヨリ昭和九年ニ至ル十年間報恩傳道ト稱ス

第七條 弘法大師一千百年御遠忌報讚會ヲ組織シ御遠忌法要及ヒ記念事業ノ達成ヲ期ス

第八條 御遠忌大法會並ニ記念事業ニ關スル一切ノ經費ハ左記各項ノ收入金ヲ以テ之ニ充ツ

一、本宗寺院檀徒賦課金

一、一般檀信徒志納金

一、宗内寺院特別寄附金

一、報讚會寄附金

一、大師教會々員志納金

一、金剛峯寺交付金

一、其他雜收入

第九條 總本山金剛峯寺ニ御遠忌大法會事務局ヲ置キ御遠忌大法會ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス

但必要ニ依リ樞要ノ地ニ出張所ヲ設クルコトヲ得

第十條 管長ハ御遠忌大法會一切ノ事務ヲ總攬シ仁和寺門跡、大覺寺門跡ハ管長ヲ補佐シ、宗務所總務ハ一切ノ事務ヲ統理ス

第十一條 御遠忌大法會ニ關スル會計ハ特別會計トシ豫算並ニ決算ハ總テ宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第十二條 御遠忌大法會事務局ニハ必要ニ應シ法要、傳道、文書、經營、會計、勸募、庶務、參拜等ノ各部ヲ置キ事務ヲ分掌ス



第十三條 御遠忌大法會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一、總 監 一名 一切ノ事務執行ノ責ニ任ス
- 一、常務理事 若干名 各部ノ事務ヲ分掌ス
- 一、理 事 若干名 重要事項ノ協議ニ參加ス
- 一、參 務 若干名 各部ノ事務ニ參與ス
- 一、參務補 若干名 各部ノ事務ニ從フ
- 一、書 記 若干名 各部ノ事務ニ從事ス

第十四條 御遠忌大法會事務局ハ大正十四年四月一日ヨリ開始シ昭和九年六月末日ヲ以テ

閉鎖ス

第十五條 本規定施行上必要ナル諸規則ハ管長之ヲ定ム

御遠忌大法會總豫算

收 入 部

一金四百參拾萬圓

收 入 總 額

內 譯

第一款 一金百貳拾萬圓

本宗寺院檀徒賦課金

內 譯

第一項 金四拾萬圓

寺院實收入割

第二項 金八拾萬圓

檀徒割志納金

第二款 一金貳百貳拾萬圓

報讚會寄附金並特別寄附金

第三款 一金五拾萬圓

大師教會員志納金

第四款 一金參拾萬圓

金剛峰寺交附金

第五款 一金拾萬圓

法要中雜收入

御遠忌大法會總豫算

支出部

一金四百參拾萬圓

支出總額

內譯

第一款 一金拾五萬圓

法要費

內譯

第一項 金拾萬圓

法要費

第二項 金五萬圓

佛具莊嚴其他設備費

第二款 一金拾萬圓

兩大本山並各支所法要奠供費

第三款 一金四拾萬圓

報恩傳道費

第四款 一金貳百五拾萬圓

紀念事業費

內譯

第一項 金壹百貳拾萬圓

金堂再建費

第二項 金百萬圓

大塔再建費

第三項 金貳拾五萬圓

高野山圖書館建設費

第四項 金五萬圓

紀念出版費

第五款 一金拾萬圓

別殿建築及設備費

第六款 一金拾萬圓

接待費

第七款 一金拾萬圓

報讚會諸費

第八款 一金五萬圓

廣告及宣傳費

第九款 一金貳拾五萬圓

御遠忌大法會事務局費

第十款 一金四拾萬圓

勸募費

第十一款 一金拾五萬圓

豫備費

### 御遠忌大法會賦課金徵集法

元高野派部會ノ協賛ヲ經大正十三年十二月十三日認可、大正十五年四月七日敕令第十號改テ發布

第一條 御遠忌大法會賦課金ハ左ノ二種ニ分チ之ヲ徵集ス

第一種 本宗寺院賦課金(寺院實收入ヲ按分率ヲ以テ之ヲ賦課ス)

第二種 本宗寺院檀徒志納金(檀徒數ニ對シ之ヲ徵集ス)

第二條 賦課金ハ豫算ヲ以テ最低限度ヲ定ム

第三條 賦課金ハ大正十五年前期ヨリ昭和九年後期ニ至ル九ケ年ニ之ヲ徵集ス

第四條 賦課金ノ徵集ニ關シテハ宗規宗費賦課及禮錄徵收規則ヲ準用ス

但第二種志納金ニ對スル取扱法ハ別ニ之ヲ定ム

### 寺院及檀徒賦課金

御遠忌大法會賦課金徵集法ニ依リ左表ノ如ク寺院及檀徒賦課金ヲ定メ九ケ年間毎年之ヲ徵集ス

收入 豫算

一金百貳拾萬圓

寺院檀徒賦課總額

内 譯

一金四拾萬圓

寺院 賦 課 金

一金八拾萬圓

檀 徒 志 納 金

## 弘法大師一千百年御遠忌報讚會趣意書並規定

元高野派部會ノ協賛ヲ經大正十三年十二月十三日認可、大正十五年四月七日教令第十號改テ  
發布、大正十五年十二月六日教令第二十三號、昭和二年四月一日教令第二十八號改正

## 弘法大師報讚會趣意書

弘法大師は我が國文化の一大恩人なり宗教、教育、文學、藝術、産業、交通等各方面に於ける鴻業はこゝに言を俟たずその永く國民思想に及ぼせる偉徳は今猶生けるが如く靈光日に新に崇信月に加はる宜なる哉野山の御廟香煙長へに薫して慧燈常に照し參詣禮拜するもの年ごとに無慮一百万の多きに達するや。

昭和九年は大師入定後正に一千百年に相當す乃ち金剛峯寺に於ては古例に准じ大法會を嚴修せんとし追遠の誠を致さんが爲めに諸種記念事業を計畫して今や既にその半にあり大師の遺澤に浴し大師の靈光を仰ぐもの詎ぞ袖手傍觀するを得ん茲に同志相謀りて弘法大師報讚會を組織し記念事業の一なる大師の創めたまひし高野山根本大塔の復興を協賛して之を

大師に捧ぐると共に大師の鴻業偉徳を宣揚し一は以て大師の洪恩に報じ一は以て大師讃仰の至心を表せんと欲す若し夫れ此の少善に依りて現代の思想を淨化し我が國民文化の向上に資することを得ば大師必ずや納受せらるゝを信じて疑はざるなり庶幾くは大方の諸彦賛襄あらんことを。

## 弘法大師報讚會規定

第一條 本會ハ弘法大師報讚會ト稱ス

第二條 本會ハ昭和九年金剛峯寺ニ於テ奉修セラルル弘法大師一千百年御遠忌記念事業ノ一ナル高野山根本大塔ノ復興ヲ協賛シテ大師ニ捧ケ且ツ大師ノ偉徳ヲ宣揚スルヲ目的トス

第三條 本會ハ本部ヲ大阪ニ置キ必要ニ應シテ支部ヲ各地ニ置ク

第四條 本會ノ趣旨ヲ賛成シ事業ノ達成ニ協力スル者ヲ以テ會員トス

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長 一名 本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

一、副會長 若干名 會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

一、理事 若干名 諸般ノ會務ヲ處理ス、理事中ヨリ理事長一名竝ニ常任理事若干名ヲ互選スルモノトス

一、常任委員 若干名 理事ヲ扶ケ會務ニ當ル

一、會計監督 二名 會計事務ヲ監督ス

一、評議員 若干名 會長ノ諮詢ニ應シ重要ノ會務ヲ議決ス

一、主事 若干名 理事ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ執行ス

一、事務員 若干名 上司ノ命ヲ受ケ會務ニ従事ス

第六條 本會ニ顧問ヲ置ク、顧問ハ隨時理事會、常任委員會、評議員會ニ出席シテ意見ヲ提出スルコトヲ得

第七條 會長ハ發起人會ニ於テ推薦シ其ノ他ノ役員及顧問ハ會長ノ推薦若クハ囑託トス

第八條 本會々議ハ理事會、常任委員會及評議員會ノ三種トス

第九條 本會役員ハ主事、事務員ノ外スヘテ名譽職トス、但必要ニ應シテ實費ヲ支給スルコトヲ得

第十條 本會ノ收入支出ハ總テ理事會ノ定ムル方法ニ依ル

第十一條 本會々務ノ終了ヲ告ケタル時ハ收支決算竝ニ事務報告ヲナスト共ニ本會ヲ解散ス

但剩餘金アルトキハ理事會ノ議決ヲ經テ弘法大師一千百年御遠忌事業ノ完成若クハ金剛峰寺維持ノ資ニ充ツルモノトス

第十二條 本會ノ細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十三條 本會々則ハ評議員ニ於テ出席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

### 御遠忌事務局職制

元高野派部會ノ協賛ヲ經大正十三年十二月十三日認可、大正十五年四月七日教令第十號改テ發布、大正十五年十二月六日教令第二十三號、昭和三年十一月十九日教令第四十號、昭和六年二月二十日教令第五十九號改正

第一條 御遠忌事務局ハ高祖御入定一千百年御遠忌大法會並ニ記念事業及ヒ其準備ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌スル所トス

第二條 御遠忌事務局ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

總監 一名 常務理事 若干名

理事 若干名 參務 若干名 參務補 若干名

書記 若干名

第三條 總監ハ管長ノ總攬總務統理ノ下ニ局内一切ノ事務ヲ管理シ事務執行ノ責ニ任ス

第四條 常務理事ハ總監ヲ輔ケ各部事務ヲ分掌シ總監事故アルトキハ之ニ代リ事務ヲ處

理ス

第五條 理事ハ重要事項ノ協議ニ參加ス

第六條 參務ハ總監理事ヲ輔佐シ事務ニ參與ス

第七條 參務補ハ上職ヲ輔ケ各部ノ事務ニ從フ

第八條 書記ハ上職ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從フ

第九條 前條ノ職員ノ外必要アルトキハ管長ノ允裁ヲ經テ臨時掛リ員ヲ置クコトヲ得

第十條 總監ハ宗内正住職中六級以上ノ教師ニ就キ宗務所總務ノ推薦ニ依リ常務理事及

參務參務補ハ總監ノ推薦ニ依リ管長之ヲ特任シ書記以下ハ總監ノ推薦ニ依リ總務之ヲ任

免ス

第十一條 理事ハ宗務所部長、總大本山執行及宗内名望ノ師ニツキ管長之ヲ特任ス

第十二條 御遠忌事務局ノ事務ヲ左記ノ七部ニ分テ職員ニ中ニ就キ之ヲ分掌セシム

一、法務部 法要式事ニ關スル事項ヲ主掌ス

御遠忌事務局職制

- 一、傳道部 教務部ヲ傳道部トシ報恩傳道ノ事務ヲ主掌ス
  - 一、文書部 調査立案並ニ記録統計又ハ通報其他内外交渉ノ事務ヲ主掌ス
  - 一、經營部 工作營繕ニ關スル事務ヲ主掌ス
  - 一、會計部 賦課金徵集及出納用度ニ關スル事務ヲ主掌ス
  - 一、勸募部 志納獎勵寄附金募集ニ關スル事務ヲ主掌ス
  - 一、庶務部 庶務、設備、接待、其他各部ニ屬セサル諸般ノ事務ヲ主掌ス
  - 一、參拜部 一般參拜ニ關スル事務ヲ主掌ス
- 第十三條 御遠忌事務局各部ノ分掌規定及其他ノ細則ハ別ニ定ム

### 御遠忌大勸進教區規定

大正十五年十二月六日教令第二十四號制定

- 第一條 各府縣及六大都市等ニ御遠忌大勸進教區ヲ設定シ御遠忌ニ關スル諸般ノ事務ヲ處理スルモノトス
- 第二條 各教區ニ御遠忌事務所ヲ置キ事務所ニ主管一名委員若干名ヲ置ク  
但地方ノ狀況ニ依リ數教區ヲ併合シテ一事務所ヲ又一教區ヲ更ニ數教區ニ分割シテ數箇ノ事務所ヲ置クコトアルヘシ
- 第三條 主管ハ其教區内ニ於ケル左記事項ヲ擔任スモノトス
- 一、御遠忌ニ關シ其區内ノ宣傳及報恩傳道等ニ關スル件
  - 二、其地方ニ於ケル御遠忌法會執行ニ關スル件
  - 三、御遠忌賦課金及寄附金募集ニ關スル件

第四條 各府縣及六大都市ノ人口・戸數、富力及ヒ寺院ノ分布信仰狀態其他必要ノ實勢ヲ考慮シ各區ノ指數ヲ定メ總豫算收入部第一款第二款第三款ノ金額總計參百九拾萬圓ヲ割當テ之レヲ以テ募集金豫定額トス

第五條 主管ハ其教區ニ於ケル募集金割當豫定額ニ對シテハ責任ヲ以テ其目的ヲ達成スルコトニ努力スヘキモノトス

第六條 主管ハ其教區内寺院住職ノ協議推薦ニ係ルモノ又ハ本局總監ノ推薦セル者ヲ以テ之ニ充テ管長之ヲ任命ス

第七條 教區ノ主管ハ總監ノ推薦ニ依リ理事又ハ參務ニ任命スルコトヲ得

第八條 委員ハ主管ヲ補佐シテ其教區内ノ勸進事務ヲ處理スルモノトス委員ハ主管ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命又ハ囑託ス

第九條 各教區中本局又ハ地方ノ事情ニ依リ其勸進事務ヲ總テ本局直轄ト爲スコトアルヘシ

第十條 教區主管ハ其教區内ニ於ケル勸進方針ヲ立テ本局ニ稟申シ其決定ヲ俟テ着手スヘキモノトス

第十一條 各教區主管委員等役員ノ手當其他事務費等ハ總テ別ニ定ムル規程ニ依リ募集金額ニ應シ交付スル外別ニ本局ヨリ支給セサルモノトス

但本局直轄ノ教區ハ此限ニアラス

第十二條 各教區ニ於テ勸進上一般必要ノ帳簿印刷等ハ總テ本局ニ於テ調製シ交付スルモノトス

但別ニ教區事務所ニ於テ調製ノ必要アル場合ハ豫メ本局承認ヲ得ルモノトス

第十三條 主管ハ毎月末其教區内勸進狀況及募財ノ成績ヲ報告スヘシ

第十四條 檀徒志納金其他一般寄附金等ハ總テ各寺院ヨリ直接本局ニ納付セシメ本局ハ各教區別帳簿ニ記入シ其都度教區主管ニ通告スルモノトス

第十五條 各教區内本宗寺院ハ聯合又ハ各寺院及教會所ニテ御遠忌法會ヲ奉修スヘキモノ



トス

第十六條 前條ノ法會ハ昭和九年正當ノ年ニ於テ奉修スル總本山御遠忌大法會ノ前後ニ於テ修行スヘキモノトス

第十七條 御遠忌宣傳及報恩傳道ハ左記ノ種類ニ分チ執行スルモノトス

- 一、管長親教
- 二、記念講演
- 三、文書傳道
- 四、巡回布教
- 五、映畫宣傳
- 六、托鉢傳道

宣傳及傳道ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 各教區内ニ於ケル篤信者ニ對シテハ本局ハ教區主管ト協議ノ上別ニ勸進ノ方法

ヲ講スルモノトス

第十九條 本規定實施ニ關シ必要ノ規程ハ隨時之レヲ定ム

補

第二十條 本則改正施行ニツキ現任ノモノハ別ニ辭令ヲ用ヒス其ノ職ニアルモノトス

### 他派關係

真言宗各派聯合事相講傳所維持財團寄附行爲  
 財產目錄  
 事相講傳所維持財團沿革畧記  
 真言宗各派協約  
 後七日御修法內規  
 御修法ニ關スル協定書  
古義真言宗關係寺院取扱法  
新義真言宗關係寺院取扱法  
 真言宗各派關係寺院取扱法細則  
本宗轉派互融規約  
真言律宗追加規約  
古義真言宗關係寺院取扱法  
華嚴宗協定書  
淨土宗聯合會規則  
 佛教聯合會々々則施行規程  
 神佛道教會所規則

## 眞言宗各派聯合專相講傳所維持財團

### 寄附行爲

本財團設立者土宜法龍ハ眞言宗各派聯合ノ施設ニ係ル專相講傳所ノ事業ノ永遠ニ行ハレシコトヲ冀望シ各派聯合議會ノ決議ニ依リ該講傳ニ必要ナル資財ヲ所有管理スルヲ目的トスル財團法人ヲ設立セントシ乃チ別紙財産目錄所掲ノ財物ヲ喜捨シ眞言宗各派聯合長者ノ承認ヲ得テ其寄附行爲ヲ定ムル左ノ如シ

#### 第一章 目的

第壹條 本財團ハ眞言宗各派聯合專相講傳所ニ要スル資財ヲ所有シ之ヲ管理供給スルヲ以テ目的トス

第貳條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ資財ヲ供給スル順序方法等ハ評議員會ノ決議スル所ニ依ル

第二章 名稱

第參條 本財團ヲ眞言宗各派聯合事相講傳所維持財團ト稱ス

第三章 事務所

第四條 本財團ノ事務所ヲ京都府京都市下京區九條東寺町四十一番地ニ置ク

第四章 資産ニ關スル規程

第五條 本財團ノ資産ハ左ノ如シ

一、設立者ノ寄附ニ係ル別紙財産目錄所掲ノ資財

二、志者ノ寄贈ニ係ル資財

三、前各號ノ資財ヨリ生スル果實

第六條 資産ハ左ノ三種ニ分類ス

一、基本金

第五條第壹號第貳號ニ依ル寄附金、基本金トシテ編入シタル金錢ヲ以テ組成ス

二、供用財産

第五條第一號第貳號ニ依ル寄附物件及取得シタル物件ヲ以テ組成ス

三、常用金

第五條第參號ニ依ル收得金指定寄附金及常用金トシテ編入シタル金錢ヲ以テ組成ス

第七條 基本金ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

但シ供用財産購入ノ必要ニヨリ基本金ヲ處分セントスルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ眞

言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第八條 基本金ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ若クハ國債證券又ハ三府ノ市公債ヲ買入レ日

本銀行ニ保護寄托ヲ爲スモノトス

第九條 供用財産ハ眞言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經テ事相講傳所ノ所用ニ供スルモノト

ス

第十條 供用財産ニシテ不用ニ屬シタルモノハ之ヲ交換又ハ賣拂フコトヲ得

眞言宗各派聯合事相講傳所維持財團寄附行爲

但シ土地建物其他重要ナル物件ノ交換賣拂ハ評議員會ノ決議ニ依リ真言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經ルヲ要ス

前項賣拂ニ依リ得タル金錢ハ真言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經テ基本金又ハ常用金ニ編入スルモノトス

第十一條 常用金ハ第壹條ノ目的及本會事務ノ經費ニ充ツルモノトス

第十二條 常用金ノ支出及保管方法ハ理事ニ於テ真言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム

第十參條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十四條 理事ハ毎年度ノ始メ壹ヶ月以内ニ財産目錄及前年度ノ收支決算表ヲ作り監事ノ査定ニ付スヘシ

第五章 役員

第十五條 本財團ニ理事參名、監事貳名、評議員六名ヲ置ク

第十六條 理事中壹名ハ真言宗大本山教王護國寺、仁和寺、大覺寺、醍醐寺、隨心院、勸修寺、泉涌寺、金剛峰寺各住職タル者互選シ真言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經テ之ヲ理事長トス

理事貳名ハ真言宗聯合各派所屬僧侶ニ就キ理事長ノ推薦ニ依リ真言宗各派聯合總裁之ヲ指定シ之ヲ常務理事トス

第十七條 監事及評議員ハ理事長ノ推薦ニ依リ真言宗各派聯合總裁之ヲ任命ス

評議員ヲ推薦スルハ左ノ範圍ニ依ルモノトス

- 一、真言宗各派聯合議員ノ内ヨリ參名
- 一、真言宗各派聯合法務所事務員ノ内ヨリ壹名
- 一、真言宗各派事務員ノ内ヨリ貳名

第十八條 理事、監事、評議員ノ任期ハ滿參ケ年トス

但シ滿期後ト雖モ後任者就職ニ至ル迄ノ間ハ在職スルモノトス

真言宗各派聯合事相講傳所維持財團寄附行爲

第十九條 理事ニシテ第十六條規定ノ資格ヲ失ヒタル時ハ自然失職シタルモノトス

縱令任期中ト雖モ評議員會ニ於テ不適任ト認メ其決議ニヨリ眞言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經タル時ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十條 評議員ニシテ第十七條ノ資格ヲ失ヒタル時ハ自然失職スルモノトス

第二十一條 理事長ハ外部ニ對シ本財團ヲ代表シ書記其他執務員ヲ任免ス

第二十二條 常務理事ハ理事長ヲ補佐シ常務ヲ處理スルモノトス

第二十三條 理事長缺員若クハ事故アル時ハ常務理事ノ壹名之ヲ代理ス

第二十四條 評議員會ハ參年毎ニ壹回之ヲ開キ理事長之ヲ召集ス

但シ理事長ニ於テ必要ト認メタル時又ハ監事ノ請求アリタル時ハ臨時會ヲ開クコトヲ得  
第二十五條 評議員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決  
スル所ニ依ル

第二十六條 評議員會ハ評議員四名以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

但シ召集再回ニ及フモ其數ニ充タサル時ハ此限ニアラス

第二十七條 評議員會ノ議長ハ理事長之ニ當ル

第二十八條 評議員會ハ本寄附行爲ニ規定ノ事項及理事長ニ於テ必要ト認メ附議ノ事項ヲ  
議決ス

第二十九條 理事、監事、評議員死亡其他ノ事故ニヨリ缺員ヲ生シタル時ハ第十六條及第  
十七條ニ依リ之レヲ補充ス

補缺ノ爲メ舉ケラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十條 本財團ノ役員ハ總テ無報酬トス

但シ評議員會ノ決議ニ依リ手當ヲ支給スルコトヲ得

### 附 則

第三十一條 本財團事務執行ニ必要ナル事項ハ評議員會ノ決議ヲ以テ定ム

第三十二條 將來本寄附行爲ヲ變更セントスルトキハ理事長ノ提議ニヨリ評議員參分ノ貳

以上ノ同意決議ヲ得タル上眞言宗各派聯合總裁ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

第三十三條 本財團設立ノ際ニ限リ理事長及理事ハ設立者ニ於テ之ヲ指定スルモノトス

### 財産目録

(大正十四年四月現在)

#### 地所之部

- 一宅地八百八拾五坪參合 京都市下京區東寺町五五九番
- 一宅地壹千六百八拾九坪參合六勺 同町五九五番
- 一宅地貳百五拾坪四合八勺 同町五九七番
- 現金之部
- 一金八千貳百圓也

### 事相講傳所維持財團沿革畧記

(大正十四年四月記之)

#### 一、創立

本財團設立者土宜法龍師ハ眞言宗各派聯合ノ施設ニ係ル事相講傳所ノ事業ノ永遠ニ行ハレシコトヲ冀望シ第四回聯合議會ノ決議ヲ經テ寄附行爲證書ヲ作製シ聯合長者及各派管長ノ承認ヲ得、大正二年一月二十三日其ノ名義ヲ以テ保管シ來レル事相講傳所ノ財産宅地八百八拾五坪參合、田二反二十二步、畑三反七畝十五步及ヒ現金三千五百圓ヲ本財團ヘ寄附シ、又同日附ヲ以テ本財團法人ノ設立認可ヲ内務大臣ニ申請シ、同年三月三十日附ヲ以テ設立ヲ認可セラレ、同十九日右認可書到達セリ

#### 二、財團法人設立登記

大正二年三月二十四日京都區裁判所ニ於テ財團法人設立ノ登記ヲ了ス、登記事項左ノ如シ、

一、目的 眞言宗各派聯合事相講傳所ニ要スル資財ヲ所有シ之ヲ管理保給スルヲ以テ目的トス

二、名稱 眞言宗各派聯合事相講傳所維持財團

三、事務所 京都市下京區九條東寺町四拾壹番地

四、設立許可年月日 大正二年三月十日

五、資財ノ總額 金貳萬貳千圓 內金壹萬八千五百圓ハ不動産價格

六、理事ノ氏名住所 右理事長京都府葛野郡花園村大字御室六十三番地土宜法龍、右理事京都市下京區八條大宮西入柳原町四百三番地松永昇道、右理事京都府葛野郡梅ヶ畑村眞井覺深

三、財 産

一、地 所

一宅 地 八百八拾五坪參合

一田 貳段〇貳拾貳步

一畑 參段七畝拾五步

內 譯

一宅地八百八拾五坪參合 京都市下京區東寺町五五九番

一畑 四畝貳拾參步 同町 五九五番

一畑 壹段五畝貳步 同町 五九六番

一畑 七畝貳拾九步 同町 五九六番ノ壹

一畑 七畝貳拾參步 同町 五九七

一畑 壹畝壹步 同町 五九八番ノ貳

一畑 貳拾七步 同町

一田 貳段〇貳拾貳步 同町 六〇〇番

右大正二年一月二十三日日本財團創立ノ時設立者土宜法龍師ヨリ寄附、同年五月九日所有權



移轉登記濟

地目變換地所合併

大正十年五月下京稅務署ヨリ田畑ヲ宅地ニ變換スヘキ旨通告アリタルニ付實測ヲ行ヒ八月三十日地目變換ノ手續ヲ了シ、且ツ同時ニ地所合併届ヲ作シタル結果、前記八筆ノ地所ハ左記ノ三筆トナレリ

一宅地八百八拾五坪參合 京都市下京區東寺町五五九番

一宅地壹千六百八拾九坪參合六六 同町 五九五番

大正十年八月參拾日地目變換 大正十年九月拾七日五九六番 五九六番ノ壹、六〇〇番ヲ合併

一宅地貳百五拾坪四合八勺 同町 五九七番

大正拾年八月參拾日地目變換、大正十年九月十七日五九八番ノ貳ヲ合併

二、現金

一金八千貳百圓也

基金現在總額

內譯

一金參千五百圓也

右大正二年一月二十三日本財團創立ノ時設立者土宜法龍師ヨリ寄附、同年三月二十四日登記

一金壹千五百圓也

右ハ大正三年十月八日土宜法龍師ノ名義ヲ以テ舊事相講傳所積立金ノ内ヨリ寄附同

日基金増額登記

一金貳千壹百圓也

右ハ大正八年十一月十三日舊事相講傳所ヨリ本財團ヘ引繼キタル現金壹千九百參拾九圓八拾錢也ト其後仁和寺ヨリ舊講傳所分トシテ返金セラレタル現金壹百參拾九圓八拾錢也ト本財團經常豫備費ヨリ支出セル現金貳拾圓四拾錢也トヲ土宜法龍師ノ名義ヲ以テ寄附セラレタルモノ、同年十一月二十八日基金増額登記

事相講傳所維持財團沿革略記

一金壹千壹百圓也

右之内金壹千圓也ハ大正十二年六月二十四日故大僧正土宜法龍師遺產ノ内ヨリ土宜覺了師ノ名義ヲ以テ寄附、金壹百圓也ハ同日大僧正鎌田觀應師ヨリ寄附、同月二十七日基金増額登記

四、役 員(省略)

五、評議員會并監事會

第一回 大正三年四月二十六日東寺公園ニ於テ開會 大正二年度分  
大正三年度分

第二回 大正四年四月二十六日東寺公園ニ於テ開會 大正四年度分

第三回 大正五年四月二十六日東寺公園ニ於テ開會 大正五年度分

此時本財團寄附行爲中長者トアルヲ總裁ト改メ 第十七條評議員選任法ノ中聯合議員  
貳名ヲ參名ト改メ聯合法務所事務員貳名ヲ壹名ト改ムルコトヲ決議ス

第四回 大正六年四月二十六日東寺公園ニ於テ開會 大正六年度分

第五回 大正七年四月二十四日東寺公園ニ於テ開會 大正七年度分

第六回 大正八年七月二十八日東寺本坊ニ於テ開會 大正八年度分

第七回 大正九年四月二十四日東寺觀智院ニ於テ開會 大正九年度分

第八回 大正十年四月二十四日東寺本坊ニ於テ開會 大正十年度分

第九回 大正十一年五月二十八日東寺本坊ニ於テ開會 大正十一年度分

此時每年壹回ノ評議員會ヲ每參年ニ壹回ト改ムルコトヲ決議ス

第十回 大正十二年四月二十九日東寺本坊ニ於テ開會 大正十二年度分

此時大正十二年三年四年ノ三ヶ年度分豫算等ヲ決議ス

六、寄附行爲變更

一大正五年四月開會ノ評議員會ニ於テ(一)寄附行爲中「長者」トアルヲ「總裁」ト改メ、(二)同十七條中「眞言宗各派聯合議員ノ内ヨリ」ノ下ニ「貳名」トアルヲ「參名」ト改メ「眞言宗各派聯合法務所事務員ノ内ヨリ」ノ下ニ「貳名」トアルヲ「壹名」ト改ムル件ヲ決議シ

聯合總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ヘ認可ヲ申請シ、八月三十日附ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ得タリ

一大正十一年五月開會ノ評議員會ニ於テ寄附行爲第二十四條ニ「毎年」トアルヲ「參年毎ニ」ト改ムル件ヲ決議シ、聯合總裁ノ承認ヲ經テ官廳ヘ認可ヲ申請シ、九月十五日附ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ得タリ

### 眞言宗各派協約

大正十四年九月二十五日本協約締結同年十月二十一日實施  
昭和三年十月二十日改正實施

#### 第一章 總則

第一條 本協約ハ古義眞言宗并ニ眞言宗醍醐派同東寺派同山階派同泉涌寺派同小野派ノ六派間ニ於テ關係セル事項及協同シテ施行ヲ要スル事項ヲ協定シタルモノニシテ其項目

左ノ如シ

- 一 僧侶ノ分限教師及住職ニ關スル事項
- 一 賞罰ニ關スル事項
- 一 法類ニ關スル事項
- 一 管長選舉ニ關スル事項
- 一 後七日御修法ニ關スル事項
- 一 廟前參籠ニ關スル事項
- 一 地方法務支所ニ關スル事項
- 一 各派會ニ關スル事項
- 一 其他本協約ニ明記セル事項

第二條 前條ニ列記セル六派ヲ以下本協約ニ於テ便宜「眞言宗各派」ト稱ス

#### 第二章 僧侶分限教師及住職

眞言宗各派協約

第三條 眞言宗各派ハ各自其宗制宗規ニ依リ僧侶分限ヲ許可スルハ度牒授與ニ依ル

第四條 眞言宗各派ノ一ニ於テ度牒授與ヲ得僧侶分限ヲ取得シタル者ハ其他ノ宗派ニ於テモ其ノ分限ヲ認ムルモノトス

第五條 眞言宗各派僧侶ノ僧籍ハ度牒ヲ授與シタル宗派ニ在ルモノトス

但眞言宗各派中甲派所屬僧侶ニシテ乙派所屬寺院ニ住職シタル者若ハ甲派ヨリ乙派所屬ニ其ノ師僧替ヘヲ爲シタルトキハ當然甲派僧籍ヲ喪失シ乙派ノ僧籍ヲ取得スルモノトス

第六條 眞言宗各派ハ各自其宗制宗規ニ依リ教師ヲ補任ス眞言宗各派ノ一ニ於テ補任セラレタル教師ノ資格ハ其他ノ宗派ニ於テモ之ヲ認ムルモノトス

第七條 眞言宗各派ノ教師ハ眞言宗各派中自己所屬以外ノ宗派ニ屬スル教會講社ヲ設立スルコト得ノ他ノ事業ニ従事シ又ハ自己所屬以外ノ宗派ニ屬スル教會講社ヲ設立スルコト得前項ノ場合ニ於テハ其事業又ハ教會講社ノ屬スル宗派ノ規則ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八條 眞言宗各派ハ各自其ノ宗制宗規ニ依リ寺院住職ヲ任免ス眞言宗各派ノ一ニ屬スル教師ハ眞言宗各派中他派ニ屬スル寺院ニ住職副住職又ハ兼務住職タルコトヲ得ルモノトス

但二派以上ニ亘リ十七等以上ノ寺院ヲ兼務スルコトヲ得ス

### 第三章 賞 罰

第九條 眞言宗各派ハ各自其ノ宗制宗規ニ依リ其ノ派所屬ノ僧侶及教師ニ對シ賞罰ヲ行フ眞言宗各派ノ一ニ於テ褒賞懲罰ヲ受ケタルモノハ其他ノ宗派ニ於テモ同一ノ褒賞懲罰ヲ受ケタルモノト認ム

但シ特遇褒賞又ハ降級以上ノ懲罰ヲ行ハントスル時ハ豫メ關係宗派管長ノ同意ヲ經ルヲ要ス

### 第四章 法 類

第十條 眞言宗各派寺院ニシテ緣故關係ヲ有スルモノハ各派寺院相互間ニ法類タルコト

ヲ得ルモノトス

### 第五章 管長選舉

第十一條 眞言宗各派管長ノ選舉ハ當該宗派ノ宗制宗規ニ依リ眞言宗各派教師中ヨリ適當ノ候補者ヲ推薦スルコトヲ得

第十二條 眞言宗各派中甲派管長ニシテ乙派管長ニ當選就職シタル時ハ其就職ト同時ニ甲派管長ハ辭退スヘキモノトス

### 第六章 後七日御修法

第十三條 後七日御修法ハ玉體安穩鎮護國家ノ爲メ眞言宗各派協同奉修スルモノトス

第十四條 後七日御修法ハ教王護國寺灌頂院ニ於テ奉修スルモノトス

第十五條 御修法事務局ハ教王護國寺内ニ置ク

第十六條 御修法大阿遮梨、定額僧、事務局職員其ノ他經費ニ關スル事項ハ各派會ノ協議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

### 第七章 宗祖廟前參籠

第十七條 眞言宗各派教師ハ高野山宗祖廟前ニ於テ二週間以上參籠スヘキモノトス

金剛峯寺座主ノ與ヘタル宗祖廟前參籠證ヲ有スル者ニ非サレハ中僧都以上ノ教師ニ補スルコトヲ得ス

第十八條 宗祖廟前參籠ニ關スル規定ハ金剛峯寺座主ノ定ムル所ニ依ル

### 第八章 地方法務支所

第十九條 眞言宗各派ハ各自其ノ宗制宗規ニ依リ必要ニ應シ各地ニ法務支所ヲ設置ス但シ特殊ノ事情アル時ハ共同シテ事務ヲ取扱フコトヲ得

### 第九章 各派會

第二十條 眞言宗各派ノ關係事項ヲ協議スル爲メ各派會事務所ヲ京都ニ置ク

第二十一條 各派會ハ本協約ノ改廢變更其ノ他各派并ニ各本山協同ニ關スル必要ノ事項ヲ協議スルモノトス

第廿二條 各派會ヲ第一部會第二部會ノ二種トシ第一部會ハ各派管長並ニ大本山住職ヲ以テ組織シ第二部會ハ各派ノ役員ヲ以テ組織ス其役員ノ割當ハ左表ニ依ルモノトス

古義真言宗 五

醍醐派 一名

東寺派 一名

山階派 一

泉涌寺派 一名

小野派 一名

第二十三條 第一部會ハ各派管長並ニ大本山住職ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ第二部會ヨリ申請シタルトキ之ヲ開キ第二部會ハ毎年四回之ヲ開ク  
但シ必要ノ場合ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第二十五條 各派會事務所ニ主任一名書記一名ヲ置キ事務ヲ處辨ス

第二十四條 各派管長並ニ大本山住職ハ第二部會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

主任ハ各派會ノ協議ヲ以テ之ヲ選定シ任期ヲ一ケ年トス

第廿六條 各派會事務所ノ經費ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ各派ノ負擔トシ其割當方法ハ各派合議ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 補則

第廿七條 真言宗各派中宗派ノ分合ヲナサントシ又ハ成スコトアルモ本協約ヲ以テ之ヲ拘

束セサルモノトス

第廿八條 各派宗制宗規ノ規定中本協約ト關係アル條項ハ本協約改廢ノ場合ハ當然之ヲ改

廢スヘキモノトス

第廿九條 本協約ハ實施ノ日ヨリ起算シ滿三ケ年間ヲ以テ有効期間トス

但シ期間中ト雖各派管長ハ本協約ノ改廢ヲ提議スルコトヲ得

第三十條 第二部會ニ於テ本協約ヲ改正變更シタル場合ハ第一部會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第三十一條 本協約ノ實施期日ハ各派管長ノ連名ヲ以テ之ヲ達示ス

### 御修法ニ關スル協定書

大正九年十月二十六日眞言宗聯合各派智豐兩派管長協定、昭和五年十月九日改テ協定

- 一、昭和六年度以後御修法ハ左ノ方針ニ依リ奉修スルコトヲ協定ス
  - 一、本協定ハ眞言宗八派管長ノ協約トス
  - 一、八派管長及ヒ仁和寺大覺寺長谷寺住職ハ都ヘテ長者タルコトヲ得ルモノトス
  - 一、御修法ノ法流ハ當分從來ノ慣例ニ依リ奉修ス
  - 一、長者ノ順番ハ左ノ順序ニ依ル
- |       |      |
|-------|------|
| 昭和七年度 | 山階派  |
| 昭和六年度 | 古義派  |
| 昭和五年度 | 醍醐派  |
| 昭和四年度 | 豐山派  |
| 昭和三年度 | 東寺派  |
| 昭和二年度 | 泉涌寺派 |
| 昭和一年度 | 智山派  |
| 昭和零年度 | 小野派  |

昭和八年度	小野派
昭和九年度	醍醐派
昭和十年度	豐山派
昭和十一年度	東寺派
昭和十二年度	泉涌寺派
昭和十三年度	智山派

以下右ノ順位ヲ逐フ

- 一、當番管長事故又ハ缺員ノ場合ハ次年度當番ト相互ニ限リ交替スル事ヲ得
- 一、當番宗派ノ都合ニ依リ其ノ當番ヲ他派ニ讓ル事ヲ得

但シ此場合ハ其宗派ノ當番ヲ終了シタルモノトシ其讓受ケタル宗派ノ順番ニ異動ナキモノトス

- 一、定額僧ハ大阿闍梨十五名中各派管長仁和寺大覺寺兩門跡十名智山派一名豐山派一名

名其他ノ各派ヨリ三名ノ率ニテ出仕スルモノトス

一、管長及ヒ大本山住職タル供僧ノ席次ハ年齢順ニ依ル

但シ長者職已修者ハ末修長者ノ上席トス

一、前項以外ノ供僧ノ席次ハ都ヘテ年齢順トス

一、奉修ニ要スル經費ハ左ノ率ニ依リ負擔ス

百分ノ廿四

古義真言宗

〃ノ廿

智山派

〃ノ廿

豐山派

〃ノ廿

東寺派

〃ノ十六

東山四山

一、大正九年十月廿六日各派管長協定ハ之ヲ廢ス

古義真言宗 新義真言宗 關係寺院取扱法

明治三十五年五月二十五日聯達

第一章 總 則

第一條 本法ハ真言宗々典第八十四條同高野派宗制第八十三條同御室派同大覺寺派宗制

第八十二條智山派豐山派宗憲第八十九條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本法ニ公稱寺院ト稱スルハ真言宗各宗派總本山乃至準別格本山ノ直末已下寺院

ニシテ新義真言宗智山派又ハ同豐山派ヲ公稱スル寺院ヲ略稱ス智山派又ハ豐山派ヲ公稱

スルハ新義ノ教相ニ基キ本末ノ關係ハ事相ノ法流ニ依ル

第三條 本法ニ真言宗各宗派ト稱スルハ真言宗同御室派同高野派同大覺寺派ヲ略稱ス

第四條 本法ニ單ニ智山派又ハ豐山派ト稱スルハ新義真言宗智山派豐山派ヲ略稱ス

第二章 住職及檢知

第五條 真言宗各宗派寺院ノ末寺ニシテ智山派又ハ豐山派ヲ公稱スル寺院ノ住職ハ真言

古義真言宗新義真言宗關係寺院取扱法



宗各宗派其關係管長之カ任免ヲ行フモノトス

第六條 前條住職任免ノ場合ニ於テハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之カ檢知ヲ爲スモノトス

檢知ヲ經サルモノハ住職ヲ任免スルコトヲ得ス

第七條 住職任免ヨリ生スル爭議ハ檢知ヲ爲シタル其派管長ト協議ヲ以テ裁定ス但シ主務官廳ノ命令又ハ處分ニ依ル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第八條 眞言宗各宗派其關係管長ニ於テ懲罰條例ニ依リ公稱寺院住職ノ停職又ハ住職罷免セントスル時ハ事由ヲ具シ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長ノ承認ヲ要ス前項懲罰ニ該當スルモノアルトキハ智山派又ハ豊山派管長ハ其處分ヲ眞言宗各宗派其關係管長ニ請求スルコトヲ得

第九條 公稱寺院ニシテ住職ヲ選定セス寺院ノ興廢ニ關スルトキハ智山派又ハ豊山派管長ノ住職任命ヲ眞言宗各宗派其關係管長ニ請求スルコトヲ得

第十條 公稱寺院ノ住職タルヘキ者ハ左ノ標準ニ從ヒ寺格ト寺院等級トニ合致スル教師ニ限ル其寺格ト寺院等級トヲ比較シ其高キ方ノ寺格若ハ寺院等級ニ相當スル教師ニ限ル

寺院等級	特等 ヨリ一等 マデ	同四等ヨ ヨリ五等マ マデ	等地一等 ヨリ五等マ マデ	同六等ヨ ヨリ七等マ マデ	同八等ヨ ヨリ十等マ マデ	同十一等 ヨリ十二等 マデ	同十三等 ヨリ十五等 マデ	同十六等 ヨリ廿等 マデ	同廿一等 ヨリ廿五等 及 其以下
寺格	別格本山	準別格本 山	常法談林	談林	準談林	格院	平格院	末寺	門徒
師等級	權中僧正 以上	權少僧正 又ハ少僧 正以上	權大僧都 又ハ大僧 都以上	中僧都 以上	權中僧都 以上	少僧都 以上	權少僧都 以上	權律師 以上	教師試補 以上

但シ右表中教師等級トアルハ豊山派ニアツテハ僧侶等級ヲ用フルモノトス

第三章 法流印可

第十一條 住職任命後直ニ本寺ノ法流印可ヲ稟承スヘキモノトス

但シ事故アルモ六ヶ月ヲ經過スルコトヲ得ス

第四章 教師

第十二條 公稱寺院ノ住職又ハ徒弟ノ教師進退ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長

之ヲ行フ

第十三條 智山派ハ豊山派管長ニ於テ公稱寺院ノ住職ニ對シ懲誡條例ニ依リ降級又ハ教師  
褫奪ノ處分ニ付セントスル時住職ノ資格ニ異動ヲ生スル場合ハ事由ヲ具シ眞言宗各宗派  
關係管長ノ承認ヲ要ス

第五章 色衣允可

第十四條 公稱寺院住職ノ色衣被着ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之ヲ許可ス

第六章 寺格及寺院等級

第十五條 公稱寺院ノ寺格昇降ハ眞言宗各宗派其關係管長之ヲ允可ス

但シ智山派又ハ豊山派管長ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第十六條 公稱寺院ノ談林格及寺院等級ノ昇降ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長  
之ヲ允可ス

第十七條 公稱寺院ノ寺格並昇格禮録ノ額ハ左ノ如ク之ヲ定ム

別格	本山	金百五拾圓
準別格	本山	金百圓
常法	談林	金七拾圓
談	林	金五拾圓
準	談林	金四拾圓
格	院	金參拾圓
平	格院	金貳拾圓
末	寺	金貳拾圓
	一色	金拾五圓

第七章 副 伸

第十八條 公稱寺院ノ官衙公廳ニ對スル願書ノ副伸ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派  
管長之ヲ爲ス

但シ本寺連署ノ外總本山又ハ大本山住職ヨリモ副伸ヲ爲スモノトシ其副伸具備スルニ非

レハ管長ハ副伸ヲ爲ササルモノトス

第八章 宗費并禮録

第十九條 公稱寺院ニ賦課スル宗費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス

一 智山派又ハ豊山派教學費事務費其他ノ宗費ハ智山派又ハ豊山派ノ宗規ニ依リ各其派ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス

二、眞言宗各宗派ノ事務費ハ一個寺金貳拾錢ノ程度ヲ以テ之ヲ徵收スルモノトス

三、眞言宗各宗派ノ事務費ハ都合ニ依リ智山派又ハ豊山派各關係宗務所ヘ之カ徵收ヲ

囑托スルコトヲ得

第二十條 公稱寺院住職補任禮録ノ額ハ寺院等級ニ依リ左ノ如ク之ヲ定ム

特等地	一、二、等	拾五圓
同	四、五等	拾貳圓
等地	一 等	拾圓

同	二 等	九圓五拾錢
同	三 等	九圓
同	四 等	八圓五拾錢
同	五 等	八圓
同	六 等	七圓五拾錢
同	七 等	七圓
同	八 等	六圓五拾錢
同	九 等	六圓
同	十 等	五圓五拾錢
同	十一等	五圓
同	十二等	四圓五拾錢
同	十三等	四圓

同	十四等	參圓五拾錢
同	十五等	參圓
同	十六等	貳圓五拾錢
同	十七等	貳圓
同	十八等	壹圓五拾錢
同	十九等	壹圓
同	二十等	七拾錢
同	二十一等已下	五拾錢

第九章 轉 派

第二十一條 眞言宗各宗派ノ僧侶ニシテ智山派又ハ豊山派ニ轉派ヲ出願スルモノ及智山派又ハ豊山派ノ僧侶ニシテ眞言宗各宗派ニ轉派ヲ出願スルモノハ其所屬宗派管長ノ承認ヲ要スルモノトス

眞言宗各派關係寺院取扱法細則

第一條 公稱寺院住職ノ資格ハ智山派又ハ豊山派ノ宗規ニ依リ之カ任命ノ手續ハ眞言宗各宗派ノ宗規ニ依ルモノトス

第二條 公稱寺院ノ住職任免及寺格昇降ノ願書ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派宗務所ヲ經テ之ヲ眞言宗各宗派共關係宗務所ヘ差出スモノトス

第三條 公稱寺院住職任免ノ辭令及寺格昇降ノ許狀ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派宗務所ヘ交付スルモノトス

智山派又ハ豊山派宗務所ハ各其宗務支所ヲ經テ之ヲ其寺院住職ヘ交付スルモノトス

第四條 公稱寺院住職ヨリ其本寺ヘ納ムル繼目禮録ハ左ノ如ク之ヲ定ム

特等	一等	金參拾圓
別格本山同	二等	金貳拾八圓
同	三等	金貳拾六圓

眞言宗各派關係寺院取扱法細則

準別格本山		特等	四等	金貳拾四圓
同	同	五等	金貳拾貳圓	
同	同	一等	金拾五圓	
常法談林		同	二等	金拾四圓
同	同	三等	金拾參圓	
同	同	四等	金拾貳圓	
同	同	五等	金拾壹圓	
談林		等地	六等	金拾圓
同	同	七等	金九圓	
同	同	八等	金八圓五拾錢	
同	同	九等	金八圓	
同	同	十等	金七圓五拾錢	

格院		等地	十一等	金七圓
同	同	十二等	金六圓五拾錢	
平格院		等地	十三等	金六圓
同	同	十四等	金五圓五拾錢	
同	同	十五等	金五圓	
同	同	十六等	金四圓	
同	同	十七等	金參圓	
末寺		同	十八等	金貳圓
同	同	十九等	金壹圓	
同	同	二十等	金七拾五錢	
同	同	廿一等	金五拾錢	
同	同	廿二等	金五拾錢	

眞言宗各派關係寺院取扱法細則

門 徒同 廿三等 金五拾錢

同 廿四等 金五拾錢

同 廿五等 金五拾錢

但シ末寺格ニシテ等級二十一等以下ニ該當スル寺院ハ末寺等級ノ内最下級二十等ノ禮録又末寺格ニシテ十五等以上ノ等級ナルモ十六等ノ禮録ヲ納付スヘキモノトス平格院ニシテ其寺格ト等級ト相一致セサルモノノ取扱亦之ニ準例ス

第五條 公稱寺院住職ノ本寺繼目禮録ハ住職補任禮録ト同時ニ其寺院ノ公稱セル智派山又ハ豐山派宗務所ヲ得テ真言宗各宗派關係宗務所ヘ納付スルモノトス但シ末寺ヨリ直ニ本寺ヘ繼目禮録ヲ納ムルヲ便宜トスルモノハ此ノ限ニ非ラス

第六條 住職任命後止ヲ得サル事故アリ六ヶ月以内ニ於テ其本寺ノ法流印可ヲ稟承スルコト能ハサルモノハ其事由ヲ具シ延期出願許可ヲ得ヘシ

第七條 真言宗各宗派僧侶ノ智山派若ハ豐山派ヘ轉派セントスルモノ又ハ智山派豐山派

僧侶ノ真言宗各宗派ニ轉派セントスルモノハ左項ノ手續ニ依ル

一、轉派セントスル者ハ轉派承認願ニ冥加金五拾錢ヲ添附スヘシ

一、加入セントスル者ハ轉派加入願ニ履歷書及禮録金五圓添附スヘシ

(備考)

第一條中智山派宗憲八十九條トアルハ現行宗憲第七十六條ナリ

本宗 真言律宗 轉派互融規約

明治三十三年十一月六日規約

一、真言律宗教師ニシテ真言宗高野派寺院ヘ住職セントスル者ハ本宗管長ノ轉宗認可ヲ經ヘシ真言宗高野派教師ニシテ真言律宗寺院ヘ住職セントスル者亦同様タルヘシ然ル上互ニ住職ヲ許可スル事

本宗真言律宗轉派互融規約

### 同 追加規約

大正五年十一月廿八日規約

- 一、轉派願ハ轉派セントスル宗派ノ管長ニ宛差出サシム
- 二、甲派ヨリ乙派ニ轉派セントスルトキハ甲派管長ノ認可書ヲ添附シテ乙派管長ニ出願セシム
- 三、轉派ニ對シ轉出金五圓轉入金拾圓ノ禮錄ヲ本山へ納入セシム
- 四、轉派ノ手續終了ノ上ハ直ニ現級僧階ニ對シ職級補任及色衣允可願ノ手續ヲ爲サシメ職級補任并ニ色衣允可ノ禮錄ヲ徴ス
- 眞言宗聯合各派ニ於テ權中僧都以上ニ補任スルニハ宗祖廟前參籠ノ手續ヲ爲サシム
- 眞言律宗ニ於テ教師ニ補任スルニハ西大寺本山へ交衆ノ手續ヲ爲サシム
- 五、住職願書ハ前項手續終了ノ後處理スルモノトス

### 六、轉派願認可手續濟ノ上ハ舊所屬本山へ其旨互ニ報告スル事

(御室派大覺寺派ニ於テモ各眞言律宗ト高野派同様ノ規約ヲナセリ)

眞言宗高野派  
華嚴宗

### 關係寺院取扱法

(大正九年四月十二日  
文部大臣ヨリ認可)

第一條 本法ハ眞言宗高野派及華嚴宗ニ關屬スル寺院及其住職ニ關スル取扱法ナルヲ以テ兩宗派ハ之ヲ確守履行スルモノトス

第二條 本法ニ寺院ト稱スルハ左ノ七ヶ寺トス

奈良縣生駒郡北倭村字高山

法樂寺

同

本願寺

同

西光寺

同

妙法寺

眞言宗高野派華嚴宗關係寺院取扱法

同

圓樂寺

同縣磯城郡安倍村

文殊院

同縣同郡櫻井町字下

聖林寺

第三條 前條列記ノ寺院ハ眞言宗高野派明王院及華嚴宗東大寺ノ兩末ニシテ宗派ハ眞言宗高野派ヲ公稱ス

但シ本末關係ノ慣行ハ眞言宗各派聯合制規并ニ高野派宗典寺法及嚴華宗宗制寺法ニ依ルモノトス

第四條 寺院ノ寺格等級ハ眞言宗各派聯合制規及華嚴宗宗制寺法ニ依リ高野派管長及華嚴宗管長協議ノ上之ヲ定ム

第五條 寺院所有ノ財産及什寶物ノ保管其他財産異動ニ關スル監督ハ高野派管長及華嚴宗管長ニ於テ行フモノトス

但シ財産異動出願ノ場合ハ華嚴宗管長ノ副書ヲ得テ高野派管長ニ提出スルモノトス

第六條 寺院ニ於テ行フヘキ教義法式ハ眞言宗各派聯合制規及高野派宗典寺法ニ定ムル規定ニ依リ之ヲ行フモノトス

第七條 寺院ノ住職任免ハ眞言宗高野派管長之ヲ行フモノトス  
但シ住職任免ノ場合ハ華嚴宗管長ノ副書ヲ得テ之ヲ行フモノトス

第八條 寺院ノ住職スヘキ人體ハ眞言宗聯合各派ノ僧侶中ヨリ選定スルモノトス

第九條 寺院ニシテ住職ヲ選定セス寺院ノ興廢ニ關スル場合ハ華嚴宗管長ハ其寺院ノ住職選定ヲ高野派管長ニ請求スルコトヲ得

第十條 寺院住職及徒弟ノ僧階補任并ニ其昇級ハ眞言宗高野派管長之ヲ行フモノトス  
但シ其都度高野派管長ヨリ華嚴宗管長ニ報告スルモノトス

第十一條 寺院ノ住職及其徒弟ノ教育僧籍編入法流稟承法衣着用等ハ眞言宗各派聯合制規及高野派宗典寺法ニ依ルモノトス

第十二條 寺院住職ノ褒賞及懲誡ハ眞言宗高野派管長之ヲ行フモノトス



但シ其郡度高野派管長ヨリ華嚴宗管長ニ報告スルモノトス

第十三條 寺院ノ宗費及住職禮録等ハ眞言宗各派聯合制規ニ依リ眞言宗ニ徵集スルモノトス

但シ住職任命ノ際ハ眞言宗各派聯合制規ニ規定セル住職繼目料ノ半額ヲ東大寺ヘ半額ヲ高野派明王院ヘ其寺院ヨリ納付セシム而シテ本末ノ關係ハ從來ノ慣行ニ依ル

第十四條 寺院ノ住職ハ本法施行ニ關シ猥リニ抗拒スルコトヲ得ス

第十五條 本法ニ規定ナキモノニシテ寺院及其住職ニ必要ナル事項生シタル場合ハ眞言宗各派聯合制規及高野派宗典寺法ト華嚴宗宗制寺法トヲ適用シ兩宗管長協議ノ上處理スルモノトス

第十六條 本法ノ修正及變更ハ兩宗派管長之ヲ協定シ主務官廳ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得ス

第十七條 本法締盟ハ主務官廳認可ノ日ヨリ向フ貳拾ケ年ヲ限度トス

本宗協定書

明治四十三年八月八日內務大臣認可

第一條 眞言宗高野派管長及淨土宗管長ハ當麻寺關係兩宗派寺院ニ於テ協定セル別紙當麻寺寺法ヲ承認ス

第二條 當麻寺寺法第四條ニ依ル住職ノ任免ヲ執行シタルトキハ直ニ兩宗派宗務所相互ニ通牒ヲ發スルモノトス

第三條 當麻寺住職ニ對スル賞罰ハ當番住職所屬宗派管長ニ於テ之ヲ專行スルモノトス

第四條 當麻寺ノ官衙公廳ニ對スル願書ノ副申ハ必ス兩宗派管長連署スルモノトス

第五條 兩宗派管長ハ當麻寺ニ對シ宗費禮録其他ノ課金ヲ賦課徵集セサルモノトス

第六條 本協定ノ改正變更及本協定以外ノ事項ハ渾テ兩宗派管長ノ協定ヲ經ルニ非サレハ專行スルコトヲ得サルモノトス

### 佛教聯合會規則

大正四年十二月協定

- 第一條 本會ハ佛教聯合會ト稱シ本部ヲ東京ニ出張所ヲ京都ニ置ク
- 第二條 本會ハ各宗派管長及宗務ノ要職者ヲ以テ組織ス
- 第三條 本會ハ管長及宗務要職者間ノ親睦ヲ敦クシテ各宗派共通ノ事項ヲ審議處辨スルヲ以テ目的トス

第四條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

- 幹事 十二名
- 主事 一名
- 書記 若干名

必要ニ依リ顧問及囑託ヲ置クコトヲ得

第五條 幹事ハ左ノ振合ニ依リ各宗派ヨリ之ヲ選出ス

但シ數宗派聯合ノモノニアリテハ其組合セ宗派ノ協定ニ依リ幹事ヲ選出ス

天台宗	一人	同	建長寺派	一人
同 寺門派	一人	同	南禪寺派	一人
同 眞盛派	一人	同	東福寺派	一人
古義眞言宗	一人	同	圓覺寺派	一人
眞言宗東寺派	一人	同	方廣寺派	一人
同 醍醐派	一人	同	大德寺派	一人
同 山階派	一人	同	永源寺派	一人
同 泉涌寺派	一人	同	天龍寺派	一人
同 小野派	一人	同	相國寺派	一人
新義眞言宗智山派	一人	同	建仁寺派	一人
同 豐山派	一人	同	向嶽寺派	一人
臨濟宗妙心寺派	一人	同	佛通寺派	一人
佛教聯合會規則	一人	同	國泰寺派	一人
		黃	藥宗	一人

曹洞宗	一人
淨土宗	一人
眞宗本願寺派	一人
同 大谷派	一人
同 高田派	
同 佛光寺派	
同 興正派	
同 木邊派	一人
同 誠照寺派	
同 出雲路派	
同 三門徒派	
同 山元派	
淨土宗西山 光明寺派	

同 禪林寺派	
同 深草派	
時 通念佛宗	一人
融 言律宗	
眞 言律宗	
律 相宗	
法 相宗	
華 嚴宗	
日 蓮宗	
顯 本法華宗	
本 門法華宗	
本 法華宗	
法 華宗	
本 妙法華宗	一人
日 蓮宗	
日 蓮宗不受不施派	
同 不受不施講門派	

五四六

主事及其他ノ職員ハ幹事會ニ於テ之ヲ選任ス

第六條 幹事ハ本會ヲ代表シ會務一切ノ責ニ任ス

主事ハ幹事會ノ命ニ依リ事務ヲ管掌ス

書記ハ上長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事スルモノトス

第七條 評議員會ハ各宗派ヨリ選出シタル評議員ヲ以テ組織ス

各宗派ヨリ選出スル評議員ノ數ハ一宗派一人トス

但シ所屬寺院一千箇寺ヲ超ユル宗派ニアリテハ二千箇寺ヲ増ス毎ニ一人ノ評議員ヲ加フ

ルコトヲ得

第八條 本會ニ支部ヲ置ク

支部ハ各府縣ニ設置シ之ニ關スル規程ハ別ニ定ム

第九條 本會ノ經費ハ評議員會ニ於テ其ノ豫算ヲ定メ左ノ割合ニ依リ各宗派ヨリ之ヲ徵

收ス

佛教聯合會規則

五四五

但シ臨時費ニ限り管長割ト寺數割ノ比例ハ評議員會ノ決議ニ依リ適宜變更スルコトヲ得

一、管長割 十分ノ二

一、寺數割 十分ノ八

第十條 本會ノ幹事及評議員ハ無報酬トス

但シ事件ニ依リ旅費又ハ其他ノ費用ヲ支給スルコトアルヘシ

第十一條 此ノ會則施行ニ關シ必要ノ規程ハ幹事ニ於テ別ニ之ヲ定ム

附 則

第一條 此ノ會則ハ幹事ノ提案ニ依リ評議員會ノ議決ヲ經ルニアラサレハ之カ改更ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 此ノ會則ハ昭和三年一月一日ヨリ施行ス

佛教聯合會々則施行規程

第一條 幹事ノ互選ニ依リ常務幹事三名ヲ置キ幹事會ヲ代表シテ會務ヲ執行セシム

第二條 常務幹事ハ一ケ年主事ハ二ケ年ヲ以テ任期トス

第三條 幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ常務幹事ニ於テ必要ト認ムル場合隨時之ヲ開ク

第四條 評議員會ハ各宗派管長ニ於テ之ヲ選任シ本部ニ届出ツルモノトス

第五條 評議員會ノ開會期日、會場、議題ハ幹事會ニ於テ之ヲ定メ開會期日十五日前ニ各宗派へ通牒スヘシ

但シ緊急必要ト認ムル場合ハ開會通牒ノ期日ヲ短縮スルコトヲ得

第六條 評議員會ヲ開會スルノ必要ヲ認ムルモ之ヲ開會スルコト能ハサル相當ノ理由アル場合ハ文書ヲ以テ評議員ニ諮リ其ノ贊否ハ之ヲ評議員會ノ議決ト認ムルコトヲ得